

検討案（2026.10.5時点）



新・群馬県総合計画（ビジョン）

群馬から世界に発信する「群馬モデル」

～ 誰一人取り残さない自立分散型社会の実現 ～

（2021年～2040年）2026年アップデート

群 馬 県

「誰一人取り残さず、誰もが幸福を実感できる自立分散型社会」の実現に向けて

知事あいさつ文
今後更新

知事あいさつ文
今後更新

目 次

本ビジョンの位置づけ.....	1
本ビジョンのポイント.....	2
1 変化の見通し（継続する"快疎"へのニーズ）	4
5年経過による環境の変化.....	5
A 経済.....	6
B 社会.....	9
C 環境.....	12
D 国際.....	15
継続する"快疎"へのニーズ.....	18
2 目指す姿（すべての県民が幸福を実感できる群馬）	25
3つの幸福.....	26
3つの力.....	36
安全性・持続性.....	38
安全性・持続性（SDG s 軸）	41
安全性（全方位型レジリエンスの拠点）	43
持続性（群馬版ドーナツ経済）	46
価値創出.....	58
価値創出（群馬県全産業デジタル・クリエイティブ活用構想）	63
価値を生む力（価値創造軸）	74
始動人と官民共創コミュニティ.....	85

3 実現へのロードマップ（2040年に向けた、政策の方向性）	89
3つの力を全ての分野に統合的に反映.....	90
2040年までの道筋.....	93
未来に向けて	
資料 1 新・総合計画に係る懇談会	
資料 2 新・総合計画策定・アップデートに向けた「外部有識者ヒアリング」	
参考)	
幸福とは何か.....	29
わたしたちのウエルビーイング.....	33
幸福とコミュニティ.....	34
外国人との秩序ある共生社会の実現.....	52
ヒトのポテンシャル-県民総活躍.....	53
モノのポテンシャル-地域経済循環.....	54
共創のポテンシャル-官民共創コミュニティ.....	55
デザイン経営について.....	73
「デジタル×文化×人」とは.....	77
AIの進化について.....	80
土地の求心力.....	83

「ビジョン」と「基本計画」の二段階で、新たな総合計画を策定

2020年に、20年後の目指す姿を描く「**ビジョン**」と、これを踏まえて、今後10年間に重点的に取り組む具体的な政策を体系化した「**基本計画**」の2つをあわせた、全国的に見ても先駆的な構成となる新たな「**総合計画**」を策定した。

その後、群馬県を取り巻く環境が大きく変化したことから、2026年に、時代の変化に合わせた「**アップデート**」を行った。

（**ビジョン**）（20年）

- ・ 高齢者人口も減少を始める2040年をひとつの区切りとして、その間の本県を取り巻く様々な変化を見通し、県の魅力度向上・県民の幸福度向上に向けた「目指す姿」と「実現へのロードマップ」を**バックキャスト思考**で描くもの。

（**基本計画**）（10年 / 5年経過時に見直し）

- ・ ビジョンで描く20年後の姿を実現するための施策を、**ロードマップの形で体系化**するとともに、SDGsの視点から各分野の政策を整理したもの。

2040年までに、「魅力」と「幸福」に溢れた群馬を創り上げる

(1 変化の見通し)

- 策定から5年が経過し、**県を取り巻く環境は、県内でもグローバルでも大きく変化した。**
- 新たな環境下では、「**東京に近いが、東京とは異なる**」という「**疎**」の**魅力**が、さらに光る。
- 「**疎**」に寄りかかるだけでなく、「**疎**」の**魅力を際立たせる「快」をも実現する**ことが、県に求められる。

(2 目指す姿)

- 「**快**」な群馬は、すなわち、**すべての県民が、自ら思い描く人生を生き、幸福を実感できる**群馬。
- そのために、2040年に向け、「**安全**」・「**持続**」・「**価値創出**」の**3つの力**をさらに高めていくことが必要。
 - 「**疎**」でも幸福を実感できるためには、**安心して暮らせる、100年後にも続くと思える地域**が必要。
 - 安全と持続を支える前提は、**価値を生み出し続ける産業**と、それに支えられる安定した財政。
 - 3つの力の土台となるのが、自ら考えて行動する**始動人**と、**官民の共創**。

(3 実現へのロードマップ)

- 全政策分野に**上記の3つの力**を反映し、2040年の目指す姿を実現する。
- 以上のビジョンについて、**県民との対話**を重ね、順次アップデートを行っていく。



継続する“快疎”へのニーズ

継続する“快疎”へのニーズ

- ▶ ビジョン策定から5年が経過し、群馬県を取り巻く環境は大きく変化。グローバルな構造変化が、県のあり方・県民の暮らしを揺るがしている

コロナ禍を経て、今までの県の「弱み」は“快疎”という「強み」に転換。災害・地政学リスクの分散など新たな変化も、この転換を加速している

ビジョン策定から5年が経過し、群馬県を取り巻く環境は大きく変化。 グローバルな構造変化が、県のあり方・県民の暮らしを揺るがしている。

A

経済

- ・ デフレからインフレへ。物価と賃金の好循環が描けなければ、格差の拡大・固定化に繋がりがねない
- ・ 国内外で、産業政策の重要性が拡大。官民が連携した成長戦略が、新たな競争の軸となっている
- ・ デジタル化は、「DX」から「AI」のフェーズへ。価値の源泉がシフトする動きが加速

B

社会

- ・ 県人口の縮小と高齢化は継続。行政を含め、地域社会の持続性が問われるフェーズへ
- ・ 一方で、関係人口等の人の流れに変化。群馬は、移住希望地ランキング 1 位へ
- ・ 外国人住民との共生が、県内外で大きな 이슈 となり、クローズアップされている

C

環境

- ・ インフラ老朽化に伴うトラブルが全国で拡大。上下水道、道路・橋梁ほか、リスクが迫っている
- ・ 世界の脱炭素は一進一退。気候変動・気象災害は止まらず、足元で群馬は「日本一暑い県」に
- ・ 自然資本全体のサステナビリティ（ドーナツ経済）が重視される一方、獣害等の新たな災害も拡大

D

国際

- ・ 北東アジアを含めた世界の安全保障環境はさらに緊迫。有事の国民保護に目を向けていく必要
- ・ ヒト・モノ（エネルギー、物資等）の自由な越境にブレーキがかかり、県産業の前提を揺るがしている
- ・ 米欧における反グローバリズムの高揚、国民世論の分断、多党化といった情勢は日本にも波及

AIが、企業競争力の源泉を越え、国力を左右する震源となっている。

新技術の獲得に向け、各国の官民が一体となり、投資競争に邁進。

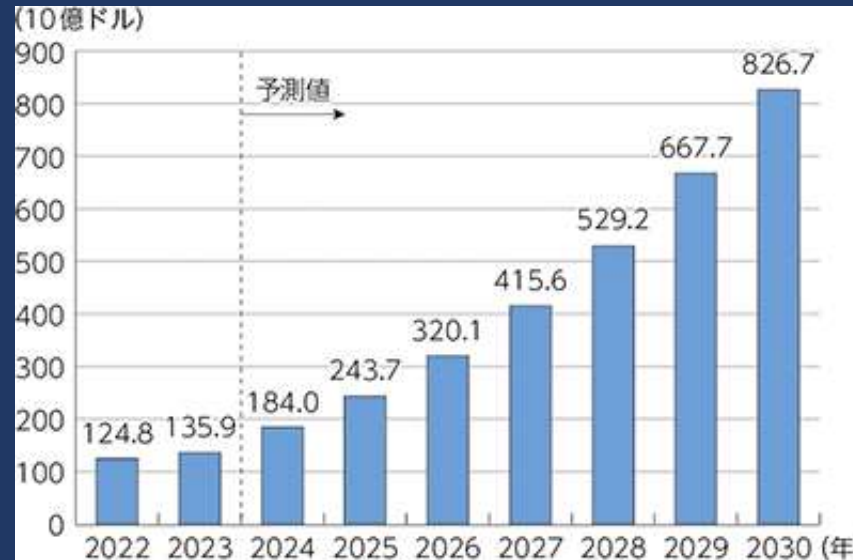
新たなルールでの競争に、群馬の産業・経済は、どう対応していくか？

AIが、企業競争力を越え、国力を左右する震源となっている。

AIの爆発的進化

- AIはデジタル空間にとどまらず、現実世界でロボット・自動運転・製造・物流等を制御する「フィジカルAI」へ進化。
- Anthropic社の「Claude Mythos」に象徴されるように、AIは単なる業務効率化ツールを超え、国家の経済・安全保障・社会基盤にも影響する戦略技術へと進化しつつある。

世界のAI市場規模（売上高）の推移及び予測



新技術の獲得に向け、各国の官民が一体となり、投資競争に邁進。



日本成長戦略

- 2025年、高市政権は、“強い経済”の実現に向け、官民連携による戦略的投資を柱とする「日本成長戦略」を掲げ、世界共通の課題解決に資する製品・サービス・インフラの提供を通じて、日本経済の持続的な成長を目指している。
- 17の戦略分野において、供給力強化や経済安全保障を見据えた「危機管理投資」と、新産業創出・高付加価値化を図る「成長投資」を官民一体で推進している。

【17の戦略分野】

① AI・半導体	② 造船	③ 量子	④ 合成生物学・バイオ	⑤ 航空・宇宙	⑥ デジタル・サイバーセキュリティ
⑦ コンテンツ	⑧ フードテック	⑨ 資源・エネルギー安全保障・GX	⑩ 防災・国土強靱化	⑪ 創薬・先端医療	⑫ フュージョンエネルギー
⑬ マテリアル	⑭ 港湾ロジスティクス	⑮ 防衛産業	⑯ 情報通信	⑰ 海洋	

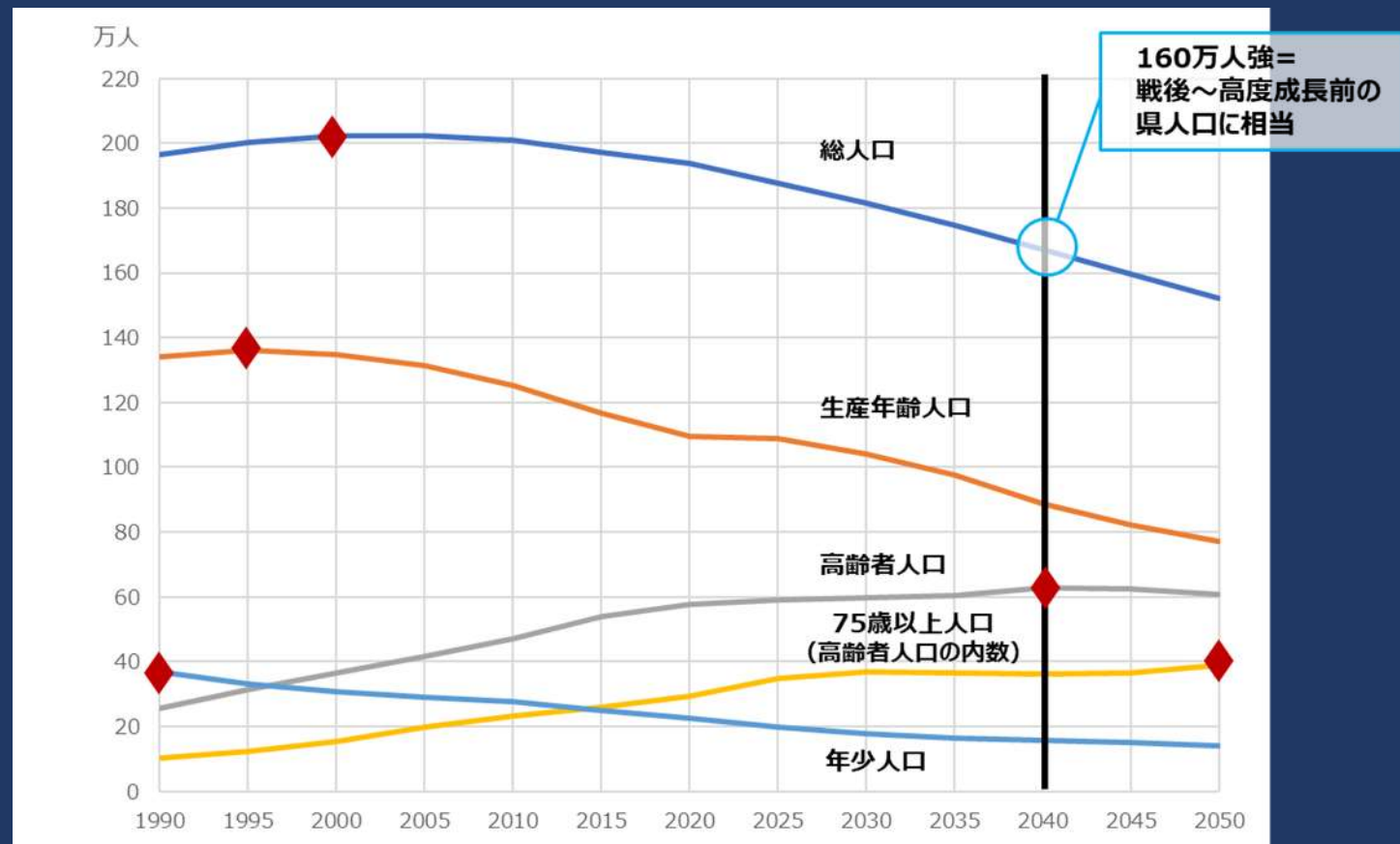
県人口は、2040年には、高度経済成長前の規模に減少する。

働き手不足や医療・介護の逼迫に、どう対応するか？

移住者や外国人県民の拡大のみで、突破することができるのか？

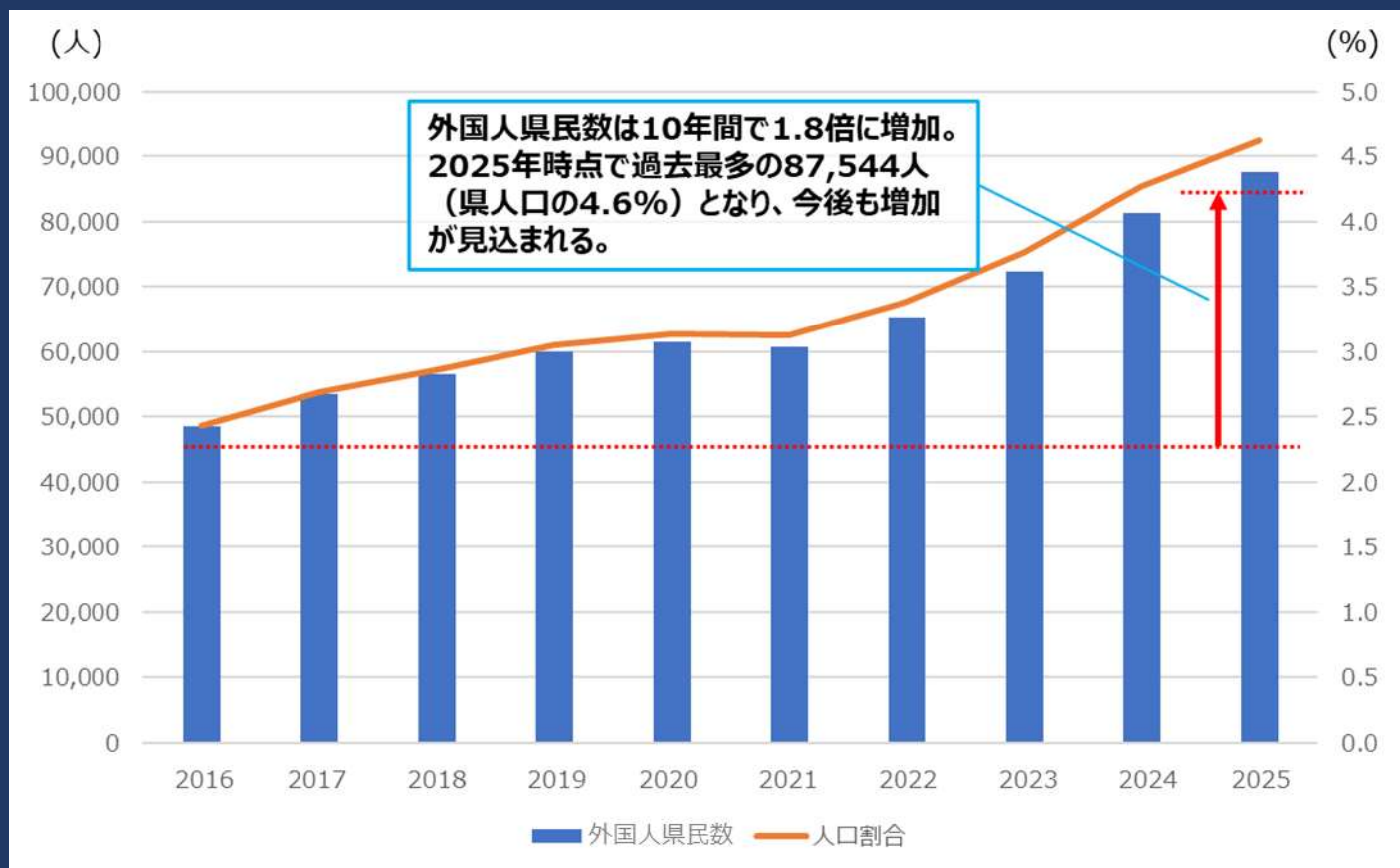
県人口は、2040年には、高度経済成長前の規模に減少する。

群馬県の人口推移と推計



移住者や外国人県民の拡大のみで、突破することができるのか？

群馬県の外国人県民数の推移



経済

社会

環境

国際

県は、日本一の酷暑に加え、獣害や山火事など、新たな脅威に直面。

その一方で、県土を支える社会インフラは、さらに老朽化が進む。

いざという時に命を守る備えを、我々は、どう維持していくか？

県は、日本一の酷暑に加え、獣害や山火事など、新たな脅威に直面。

経済

社会

㊦ 環境

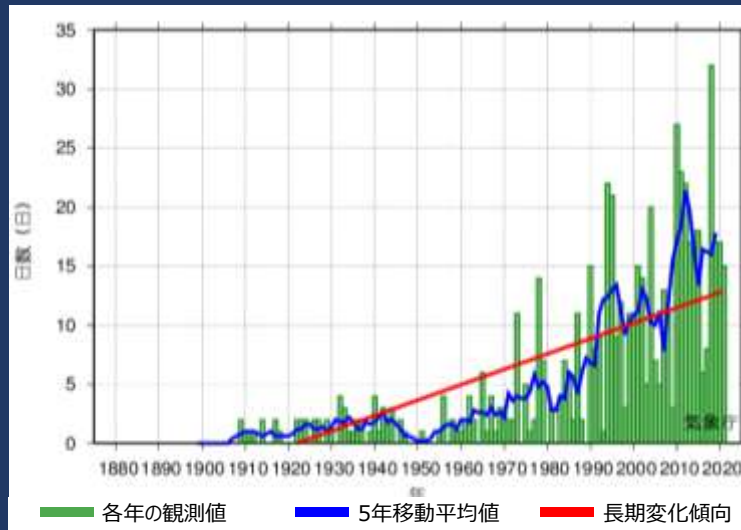
国際

止まらない気候変動

2025年8月には群馬県が観測史上最高
気温を記録

年間の猛暑日日数も増加している

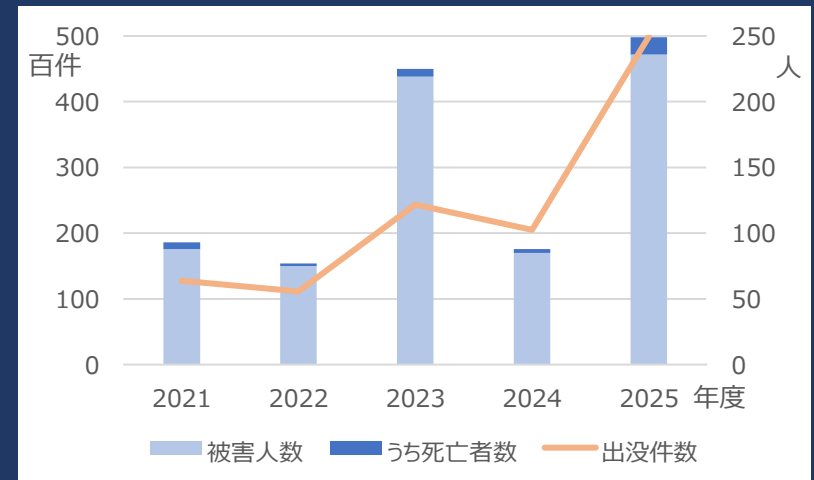
前橋における年間猛暑日日数



クマによる人身被害の急増

クマの分布域が人の生活圏周辺まで拡大した
ことにより、2025年度の被害が過去最多に

国内のクマの出没件数と被害人数



新たな災害リスクも加わり、群馬県の災害リスクも上昇傾向に

その一方で、県土を支える社会インフラは、さらに老朽化が進む。

老朽化が進むインフラ

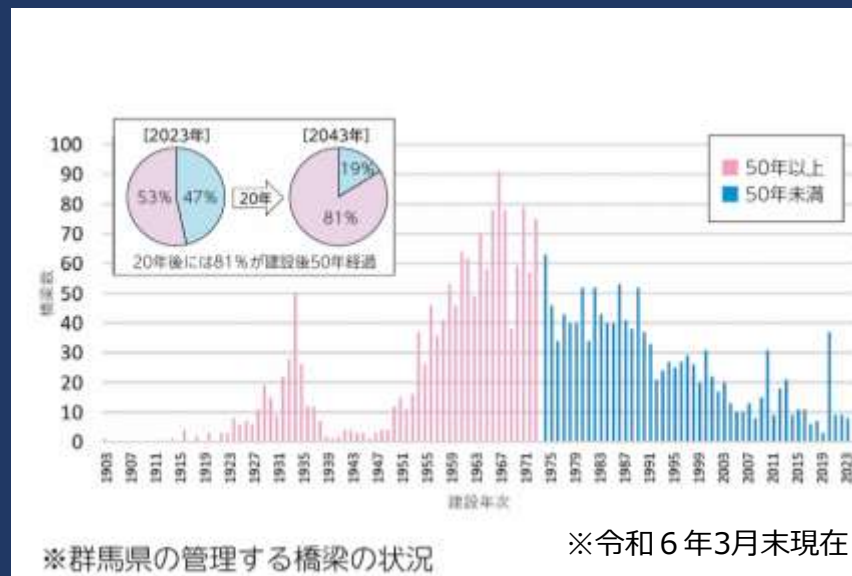
高度経済成長期に整備したインフラ
の老朽化が進行

20年後には、県が管理する橋梁のうち、
8割が建築後50年以上経過したものとなる

建築後50年以上経過するインフラの割合



建設年次別橋梁数



軍事衝突や経済的威圧は、世界中で、差し迫った脅威として現実化。

国際情勢の緊迫は、もはや対岸の火事ではなく、県に直結している。

2040年、県はどのような世界を想定し、何に備えるべきか？

軍事衝突や経済的威圧は、世界中で、差し迫った脅威として現実化。

紛争の拡大

経済

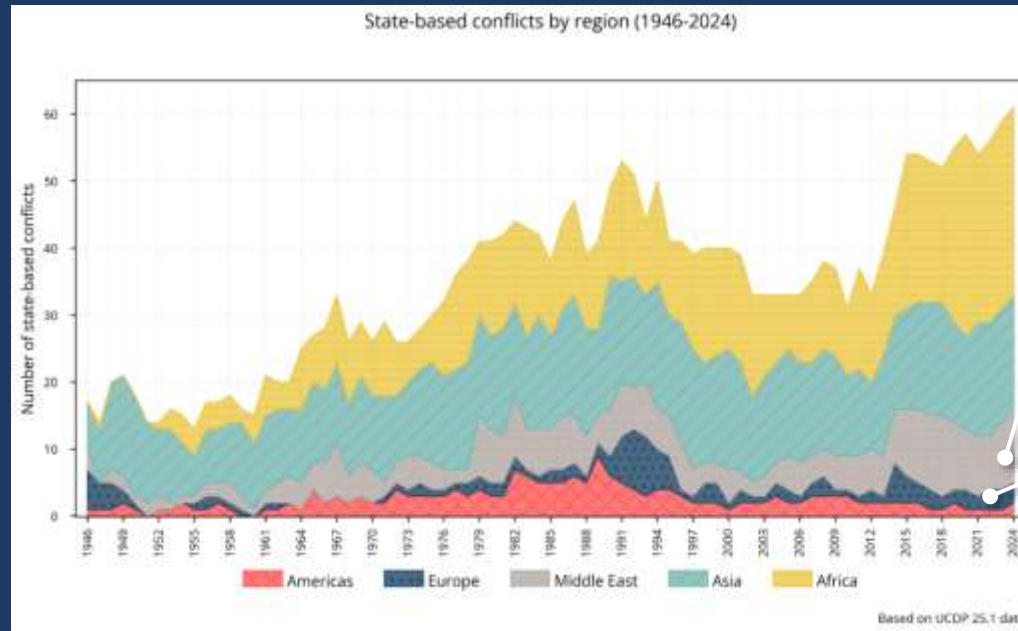
社会

環境

④ 国際

- ウクライナにおける大規模戦争や、イランを巡る軍事的緊張の高まりなどを背景に、国際情勢は急激に不安定化

地域別武力紛争数の推移



イラン軍事衝突 (2025.06-)

米・イスラエルがイランの核施設を爆撃。2026.02には体制転換を狙う大規模攻撃に拡大

ガザ紛争 (2023.10-)

ハマスによるイスラエル奇襲を契機に大規模衝突が勃発。民間人被害が深刻

ロシア・ウクライナ戦争 (2022.02-)

ロシアが全土に大規模侵攻。欧米支援を受けたウクライナが抵抗を継続

出典：ウプサラ紛争データプログラム (UCDP)

- Davies, S., Pettersson, T., Sollenberg, M., & Öberg, M. (2025) 「1989～2024年の組織的暴力と民間人被害者特定の課題」『Journal of Peace Research』第62巻第4号
- UCDPは、スウェーデン研究評議会による国家研究インフラ助成（助成番号2021-00162）に基づくDEMSCOREの一部であり、その資金提供を受けている。

国際情勢の緊迫は、もはや対岸の火事ではなく、県に直結している。

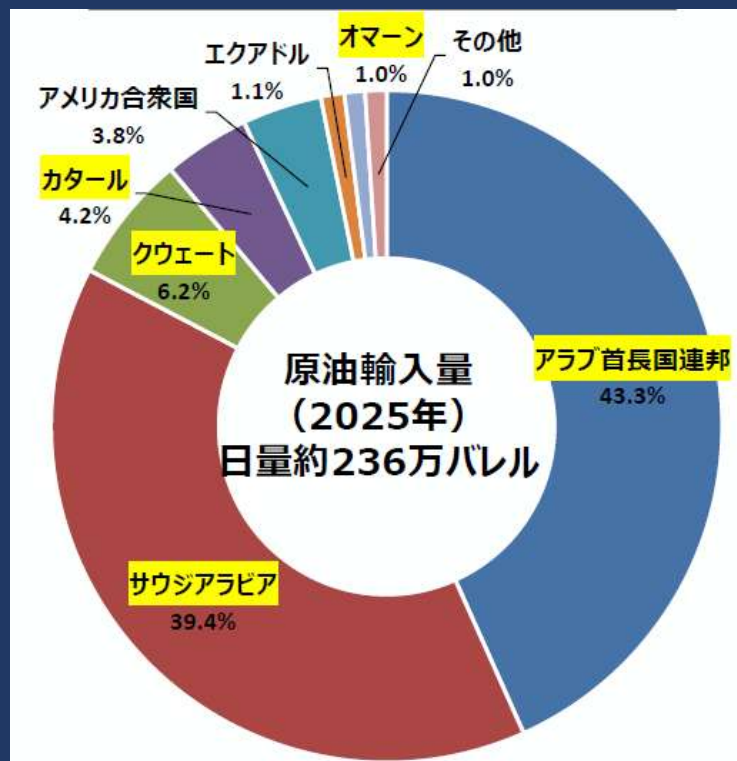
経済

社会

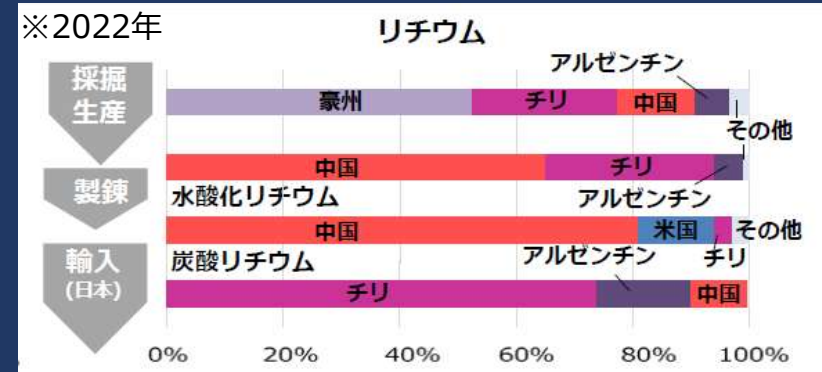
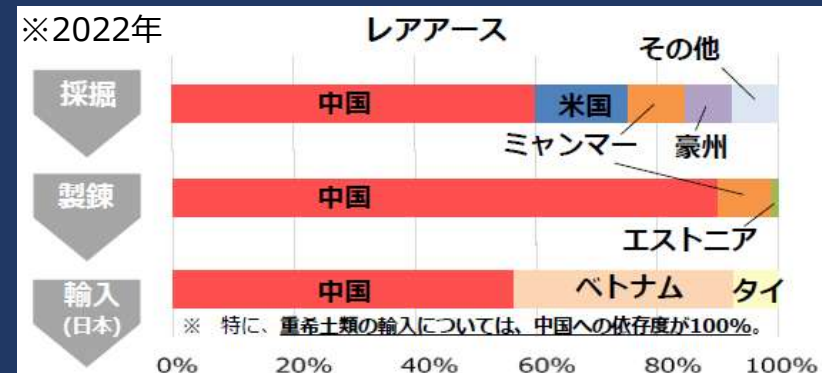
環境

国際

日本は化石燃料のほぼ全量を海外から輸入。
原油は中東依存度が9割超



レアアースやリチウムといった重要鉱石は、
主に中国など特定の国に過度に依存



継続する“快疎”へのニーズ

ビジョン策定から5年が経過し、群馬県を取り巻く環境は大きく変化。
グローバルな構造変化が、県のあり方・県民の暮らしを揺るがしている

- ▶ コロナ禍を経て、今までの県の「弱み」は“快疎”という「強み」に転換。
災害・地政学リスクの分散など新たな変化も、この転換を加速している

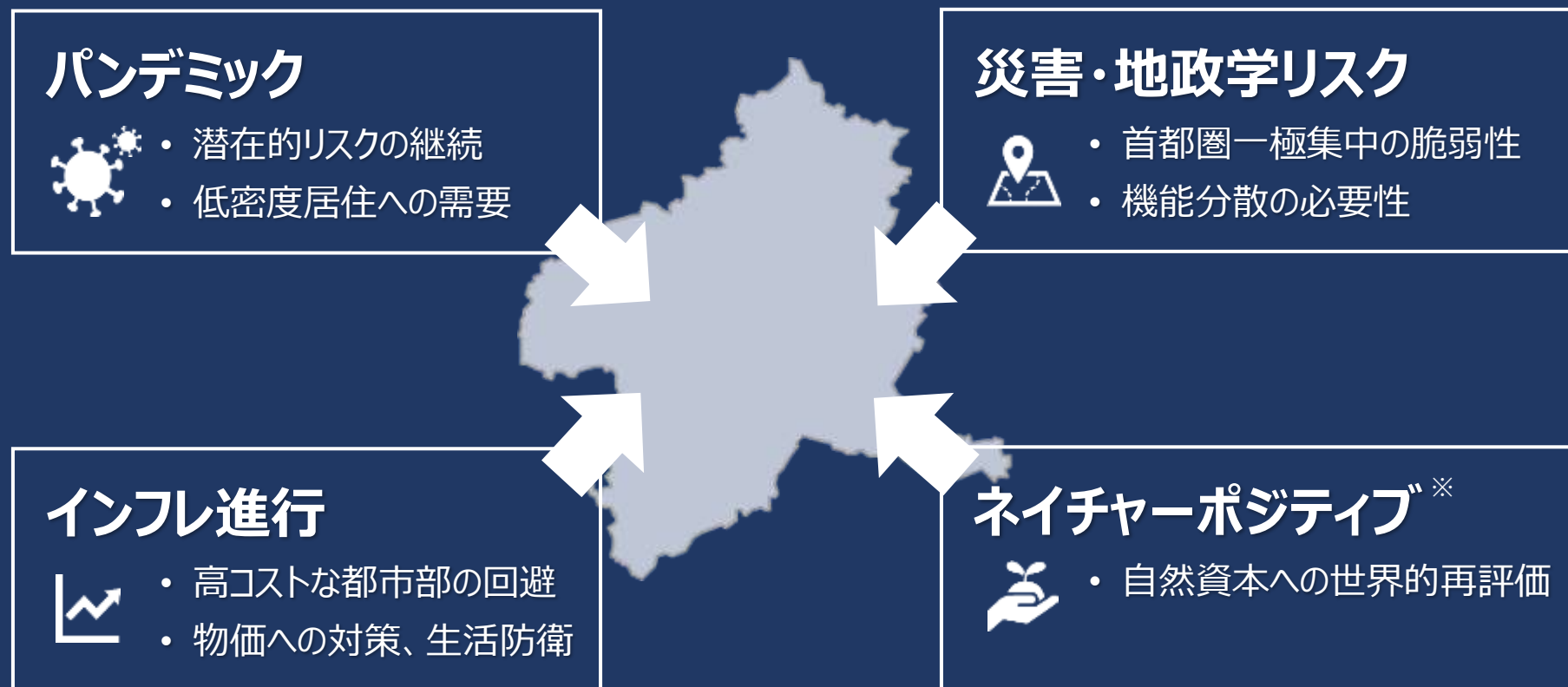
コロナ禍は、「弱み」を「強み」に変える好機をも、県にもたらした。

都心から適度に離れ、人口も適度に少ない、群馬という土地。

「東京に近いが、東京とは異なる」という、独自のポジション。

この5年の変化は、一面では、県の「疎」の魅力をさらに高めてきた。

この5年の変化は、一面では、県の「疎」の魅力をさらに高めてきた。



都心から適度に離れ、いざというときに使える土地・空間が多い。

この「疎」の力と、自然災害が少ないという特徴を活かせば、群馬は、東京圏のみならず、日本全体の危機管理機能の強化に貢献できるはず。

こうした地の利も、群馬の「疎」の力に支えられている。

ただし、いたずらに「疎」であれば、そこが「快」になるわけではない。

「疎」を、「快疎」へ。

「疎」の魅力を際立たせる「快」を実現することが、県に求められる。

① 変化の見通し - 継続する快疎へのニーズ-

いたずらに「疎」であれば、そこが「快」になるわけではない。
「疎」の魅力を際立たせる「快」を実現することが、県に求められる。



安心
できる疎

「疎」でありつつも、貧困
にも獣害にも煩わされず、
安心して暮らせる地域



未来
ある疎

「疎」でありつつも、孫の
世代にも引き継いでい
ける確信を持てる地域



楽しい
疎

「疎」でありつつも、新し
いこと・面白いことが始ま
る、ワクワクする地域

「疎」を保ちながら、その上に「快」を築くことは、簡単ではない。

これまで、我が国の多くの地域は、この両立に挑み、果たせずにきた。

市町村とも連携しながら、群馬が、その限界を超えていく。



2040年、すべての県民が幸福を実感できる群馬

2040年、すべての県民が幸福を実感できる群馬

- ▶ 我々が目指す「快疎」な群馬では、2040年、すべての県民が自ら思い描く人生を生き、幸福を実感できていなければならない

「疎」でありながら幸福を実感できるためには、人口減少下でも安心して暮らせる、そして、100年後にも続くと思える地域が必要

地域の安全と持続を支える土台は、激変する環境の中でも価値を生み出し稼ぎ続ける産業と、それに支えられる安定した財政

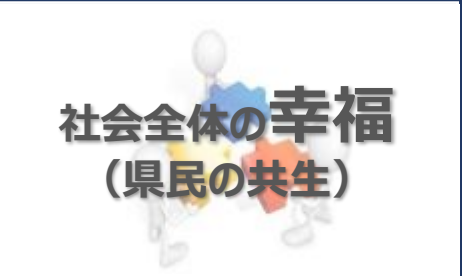
その全体を支えるのが、自ら考えて行動する始動人と、官民の共創

「快」な群馬は、県の外から見て魅力的なだけでなく、そこに暮らすすべての県民が、幸福を実感できる群馬であるはず。

我々が目指す「快疎」な群馬では、2040年、すべての県民が自ら思い描く人生を生き、幸福を実感できていなければならない。

**しかし、「幸福とは何か」は、決めつけることはできない。
だからこそ、なるべく幅広い、なるべく多様な幸福を考える。**

私たちが目指す幸福度の向上とは？

	20世紀の捉え方	幸福への疑問	目指す「幸福」
 一人ひとりの幸福	型が定まった「幸福」 - 画一的な仕事・暮らし - 標準的な家族の形	> 堅調な経済指標のわりに実感のない幸福	> - 多様な「幸福」 - 一人ひとり異なる仕事・暮らし - 良好な人間関係（コミュニティ）
 社会全体の幸福 (県民の共生)	固定的な「県民」 県民 = 居住者・出身者	> - 多様化する地域社会の参加者 - 変化の激しい時代の弱者	> - 多様な「県民」 - 県民 = + 関係者・外国人・新たなマイノリティ
 将来世代の幸福 (持続可能性)	この時代の「県民」 いまを切り取った成長・配分の最大化	> 地域社会や環境の持続可能性への懸念	> - 未来を含めた「県民」 「ドーナツ経済学」による持続的成長

参考) 幸福とは何か

- ◇ 幸福とは何か、その答えはそもそも人によって異なり、行政が決めつけるものではありません。しかし、誰にとっての幸福なのかという視点は、整理する必要があると考えます。そこで、私たちは3つの視点から幸福を整理します。
- ◇ 経済が右肩上がりで成長していた時代の一人ひとりの幸福には、ある程度決まった型がありました。終身雇用を前提にした仕事と標準的な家族の形、それぞれの役割に応じた幸福のひな形のようなものがありました。しかし、現代では、これらの前提が崩れ、価値観は多様化しています。一人ひとりにとって幸福のあり方は多様であり、一人のひとの中にも複数の幸福のあり方が共存しているのではないのでしょうか。
- ◇ 社会全体の幸福についてはどうでしょうか。20世紀の捉え方では、社会への参加者には「中高年の男性」のような決まった型が暗黙の前提になっていました。現代では、県民総活躍に見られるように、参加する主体の多様化が求められています。「県民」という概念も、従前は居住者・出身者に限定されがちでしたが、これからは、外国人や関係人口なども含めた包括的な概念で捉えていく必要があります。
- ◇ 将来世代の幸福についてはどうでしょうか。常に目の前の成長や配分の最大化を目指してきた20世紀の捉え方では、そもそも将来世代の幸福について考える余地がありませんでした。今後は、未来の県民の幸福も考え、エネルギーや食、健康や社会的平等などの様々な事象ごとに社会や環境への影響を考えるドーナツ経済学*の観点を取り入れ、バランスのとれた成長を目指す必要があります。

ドーナツ経済学：経済成長というひとつの指標にとらわれることなく、持続可能な社会を目指し提唱されている考え方。ドーナツの外側に「気候変動」や「生物多様性の損失」等の環境指標を9つ、ドーナツの内側に「健康」や「教育」等の社会的指標12つを配し、環境指標に行き過ぎや使いすぎがあればドーナツの外側に赤色で表示され、社会指標に不足があればドーナツの内側に赤色で表示される。環境や社会に問題があるとききれいなドーナツにならず、外側や内側に赤色が広がったいびつな形になる。

「快」な地域は、なるべく幅広く、多様な幸福を育む地域でもある。

私たちは、「3つの幸福」が調和した社会を目指す。

地域の資源に立脚した安定性を誇っている

自然災害に強い安全・安心な社会で、
県民の誰もが活躍できる

- No. 1 レジリエンスの群馬
- 女性・高齢者・外国人やLGBTQ
等を含めた県民が総活躍。



(社会全体の幸福)

多様な県民全員を、「誰一人取り
残さない」社会となっている

資源・人材・財政などの持続性が高
まり、2100年にも（2040年の2世
代後）残る地域となっている。

- 再エネ資源の活用と分散型電
力インフラが普及。
- 土地の固有性に根ざした地域の
魅力が「始動人」を惹きつけ新た
な「始動人」を生む。



(将来世代の幸福)

将来へ「自信を持って残せる価
値を持つ」社会となっている

世界のどこにも真似のできない、
独自の価値を生む力を持っている

デジタルツールだけでなく、それを使いこな
し価値を生む異才を持った人材に溢れて
いる。

- 新しい価値を生む人が育つ社会は、
異質な存在や多様な価値観に寛
容な社会を目指すこと



(一人ひとりの幸福)

「すべての県民が、自ら思い描く人
生を生きられる」社会となっている

3つの幸福を調和させる鍵は、
自分の存在や挑戦が、応援されている、祝福されていると
実感できるコミュニティ。

すべての県民にとって、
イノベーションへの挑戦の場となり、安心感のある居場所にもなる
そんなコミュニティを県内にたくさん育んでいく。

私たちが目指すのは、
「年齢や性別、国籍、障害の有無等にかかわらず、すべての県民が、
誰一人取り残されることなく、自ら思い描く人生を生き、
幸福を実感できる自立分散型の社会」

参考) わたしたちのウェルビーイング

- ◇ さらに、この三つの幸福を媒介し、調和を図るものとして、「わたしたちのウェルビーイング」に注目します。ウェルビーイングとは、「身体的、精神的、社会的に良好な状態にあること」です。
- ◇ 早稲田大学のドミニク・チェン教授は、従前の幸福研究で用いられるウェルビーイングの因子には、個人の中で完結するものが多すぎると指摘しています。そして、日本人を含む東アジアの人々のウェルビーイングには、身体的な共感のプロセスや共創的な場を重視する「わたしたちのウェルビーイング」という要素が大きいとしています。
- ◇ 個人（一人ひとりの幸福）と社会（社会全体・将来世代の幸福）を対立的に捉えるのではなく、関係性の中に幸福を見る「わたしたちのウェルビーイング」という考え方は、三つの幸福の調和した社会を目指す私たちにとって、大変示唆に富むものです。

参考) 幸福とコミュニティ

- ◇ 東京都市大学の坂倉杏介准教授は、ウェルビーイングにとってコミュニティには3つの意味があると指摘しています。
- ◇ まずは、「コミュニティの中で自分の存在を確かめられる安心感」という点です。自分の居場所がありそこにいだけで安心できる、そんなつながりがあるのがコミュニティです。
- ◇ 次に、個人がよい状態であるためには、他者の存在が欠かせません。「他者とともにある共在の感覚や、他者の心を感じる共感の感情」が、ウェルビーイングには重要だとされます。他者が多様な差異を前提に関わり合うことで生まれる「公共圏」としての性格がコミュニティにはあります。
- ◇ 最後に、「自律的に社会創造に参加する達成感」が挙げられます。ウェルビーイングには、誰かにやらされるのではなく、自らの意志に基づいて行動するという自律性が重要です。つまり、自律的に社会課題の解決に関わることで得られる役立っている感覚や充足感がウェルビーイングを高めるのです。
- ◇ 私たちは「自立分散型の社会」を、参加者が安心感や他者への共感、共創に加わる達成感を得られる空間としてデザインしていくことを考えています。
- ◇ 私たちはコミュニティをとおして「やってみよう」という達成感や、「ありがとう」という安心感を得ることができるのではないのでしょうか。

では、私たちの目指す「快疎」な群馬は、どうすれば実現できるのか？

「3つの幸福」は、どのような形で調和し得るのか？

そのために、県の政策には、どのような力が必要なのか？

「快」、すなわち県民幸福度の最大化は、
安全・持続・価値創出という3つの力で支えられると考える。

2040年ビジョンの実現
- 県民幸福度の最大化 -

安全性
(Safety)

命を支える



全方位型
レジリエンス

持続性
(Sustainability)

100年続く



群馬版
ドーナツ経済

価値創出
(Value)

価値を生む



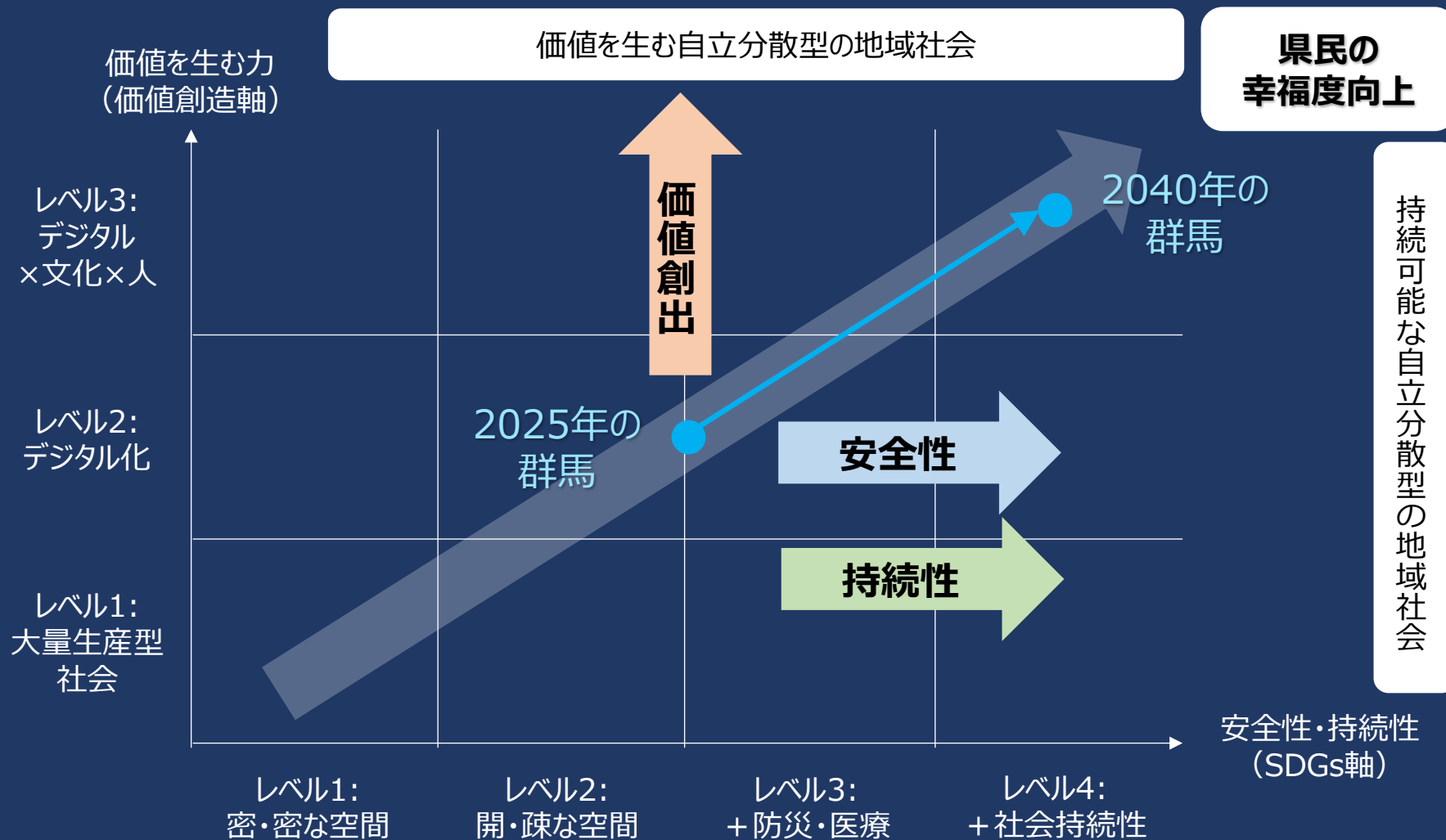
群馬県全産業デジタル・
クリエイティブ活用構想

投資
リソース
の確保

始動人・官民共創コミュニティ

② 目指す姿 - 3つの力

3つの力を同時に高めることで、2040年の目指す姿を実現する。



2040年、全ての県民が幸福を実感できる群馬

我々が目指す「快疎」な群馬では、2040年、すべての県民が自ら思い描く人生を生き、幸福を実感できていなければならない

- ▶ 「疎」でありながら幸福を実感できるためには、人口減少下でも安心して暮らせる、そして、100年後にも続くと思える地域が必要

地域の安全と持続を支える土台は、激変する環境の中でも価値を生み出し稼ぎ続ける産業と、それに支えられる安定した財政

その全体を支えるのが、自ら考えて行動する始動人と、官民の共創

「疎」な地域は、人口密度が低い。そして、その人口すらも減っていく。

人が少なくても「快」であるためには、まず、暮らしが安全であること。

さらに、その暮らしが、県内すべての地域で、100年後までも残ること。

人が少なくても「快」であるためには、まず、暮らしが安全であること。
さらに、その暮らしが、県内すべての地域で、100年後までも残ること。

2040年ビジョンの実現

- 県民幸福度の最大化 -

安全性
(Safety)

命を支える



**全方位型
レジリエンス**

持続性
(Sustainability)

100年続く



**群馬版
ドーナツ経済**

投資
リソース
の確保

価値創出
(Value)

価値を生む

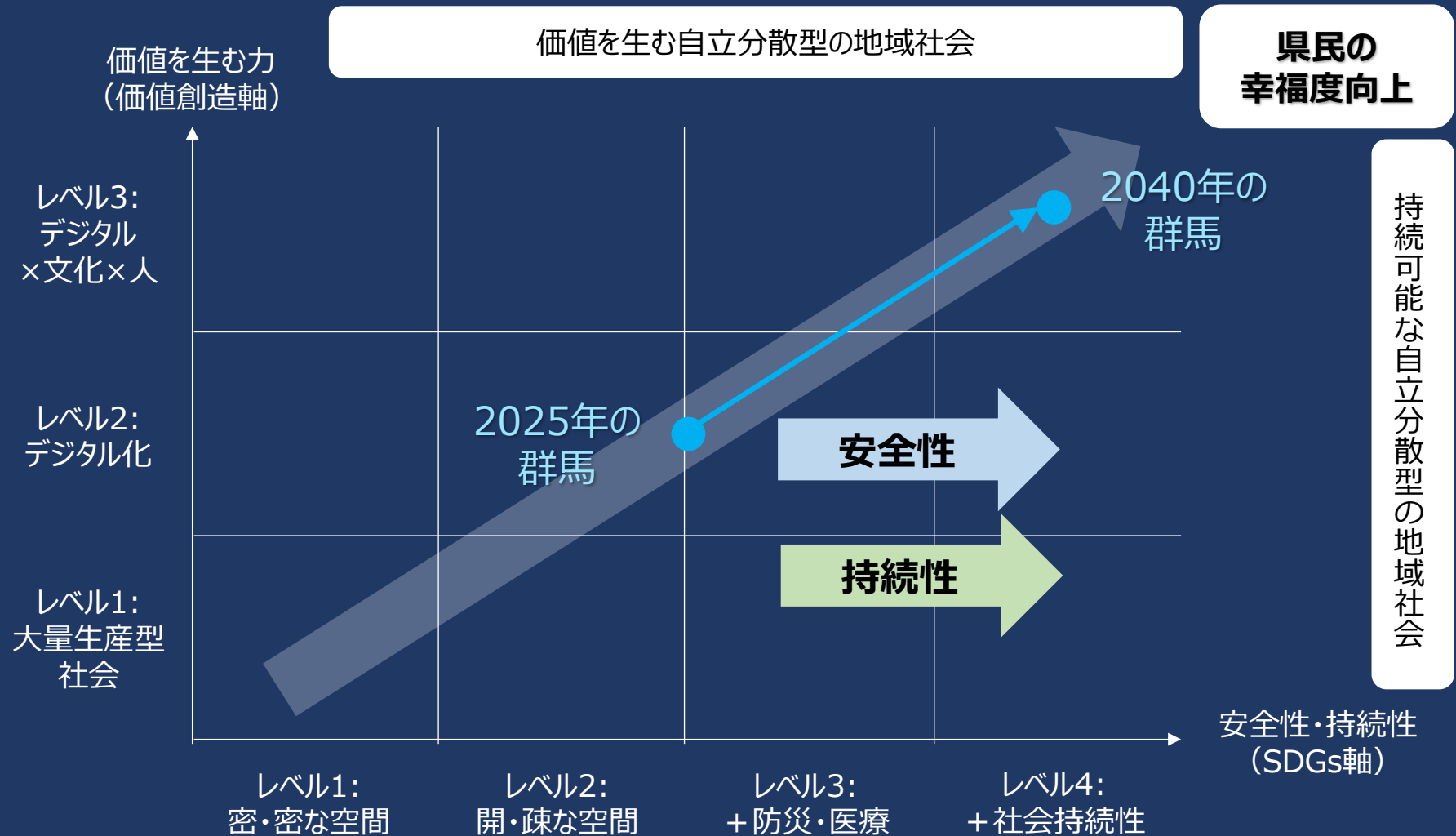


群馬県全産業デジタル・
クリエイティブ活用構想

始動人・官民共創コミュニティ

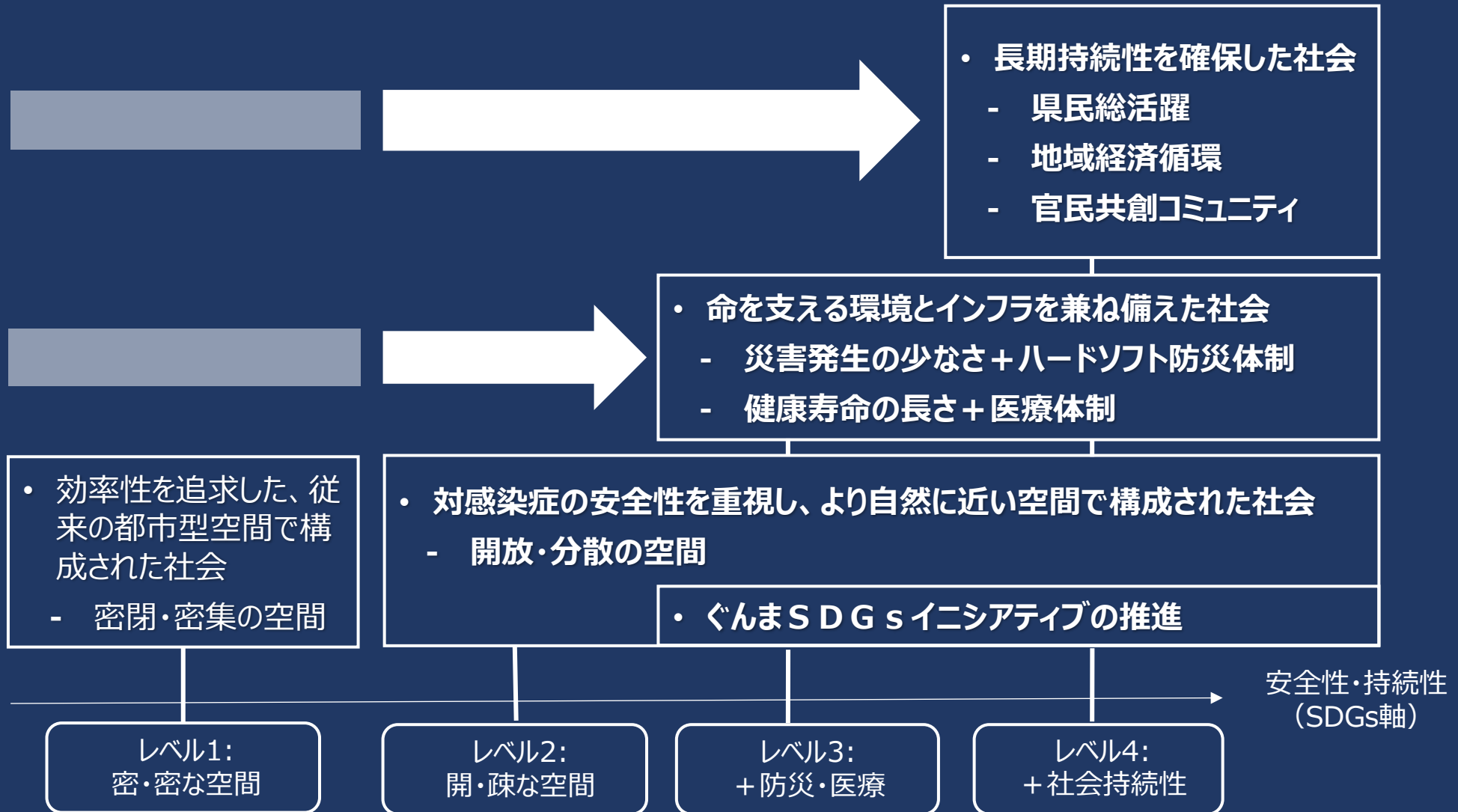
② 目指す姿 - 安全性・持続性 (SDGs軸)

誰一人取り残さない安心・安全な群馬 人口減少下でも100年続く自立・持続した群馬を実現する。



② 目指す姿 - 安全性・持続性 (SDGs軸)

軸のひとつは、誰一人取り残さない、持続可能な社会の追究。



2040年に向けて、「県民の安全を守る」ハードルは上がっていく。

新たな脅威が県民を襲う中、医療・介護や暮らしのインフラを保つ。

全方位にわたって戦わなければ、「快」な群馬は実現できない。

2040年に向けて、「県民の安全を守る」ハードルは上がっていく。

2040年ビジョンの実現

- 県民幸福度の最大化 -

安全性
(Safety)

命を支える



全方位型
レジリエンス

持続性
(Sustainability)

100年続く



群馬版
ドーナツ経済

価値創出
(Value)

価値を生む



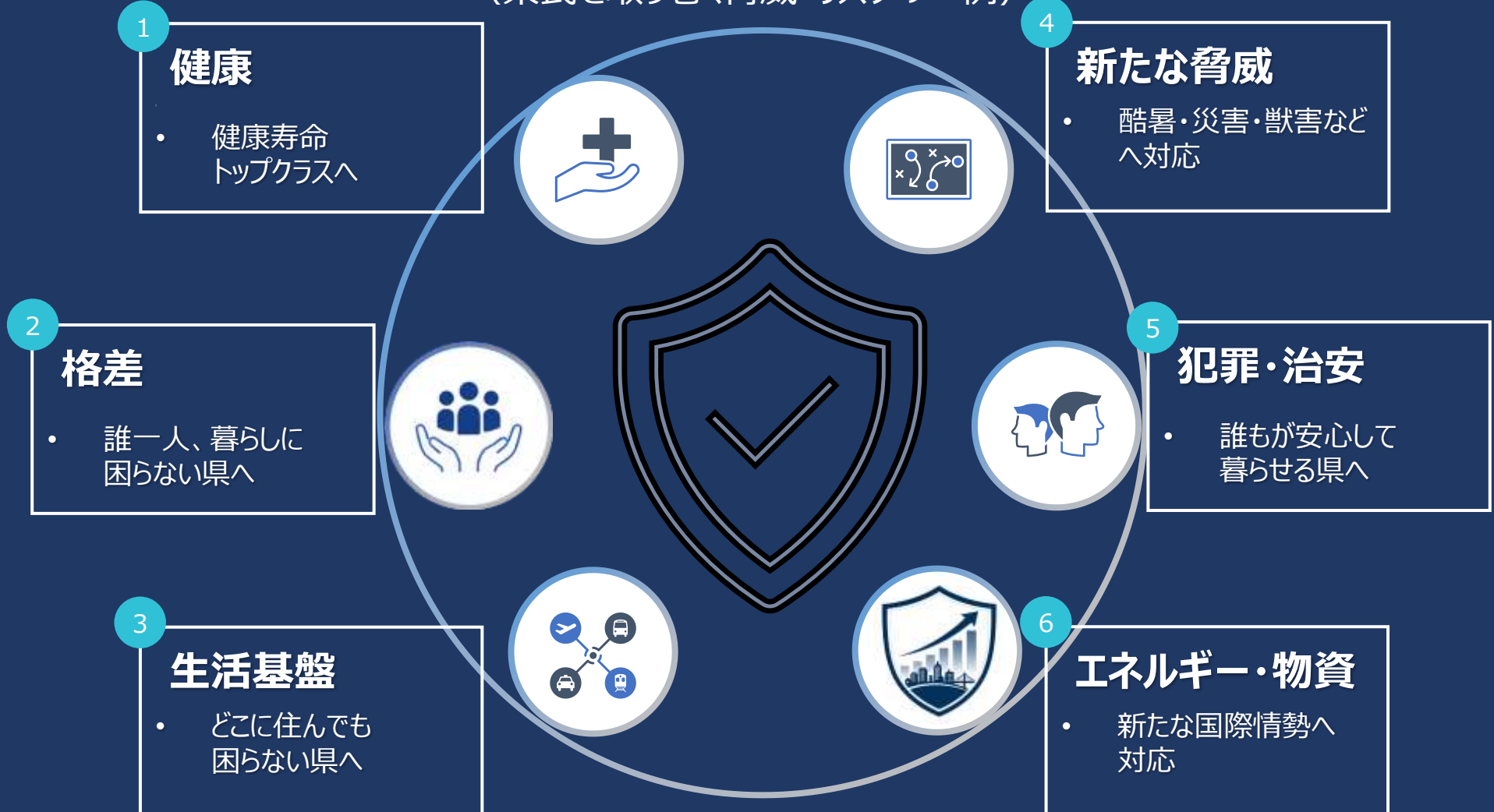
群馬県全産業デジタル・
クリエイティブ活用構想

投資
リソース
の確保

始動人・官民共創コミュニティ

県民の命と暮らしを守る、「全方位型レジリエンスの拠点」を目指す。

（県民を取り巻く脅威・リスクの一例）



100年経っても、群馬のどこでも、人々の営みが続いていること。

上州の文化と気風を、100年後のこどもたちも受け継いでいること。

群馬の「サステナビリティ」は、単に自然環境を守るだけではない。

私たちは、人々の暮らしを、地域社会を、群馬全体を、持続させる。

100年続く群馬のためには、社会も環境も、持続可能にしていく必要。

2040年ビジョンの実現

- 県民幸福度の最大化 -

安全性
(Safety)

命を支える



全方位型
レジリエンス

持続性
(Sustainability)

100年続く



群馬版
ドーナツ経済

価値創出
(Value)

価値を生む



群馬県全産業デジタル・
クリエイティブ活用構想

投資
リソース
の確保

始動人・官民共創コミュニティ

地域の経済・社会活動の大きさを、風船のようにイメージしてみる。

**小さくなり過ぎれば、風船は落ちる。
経済・社会活動が萎縮し過ぎれば、人々の地域社会が壊れていく。**

**大きくなり過ぎれば、風船は破れる。
経済・社会活動が加熱し過ぎれば、周りの自然環境が壊れていく。**

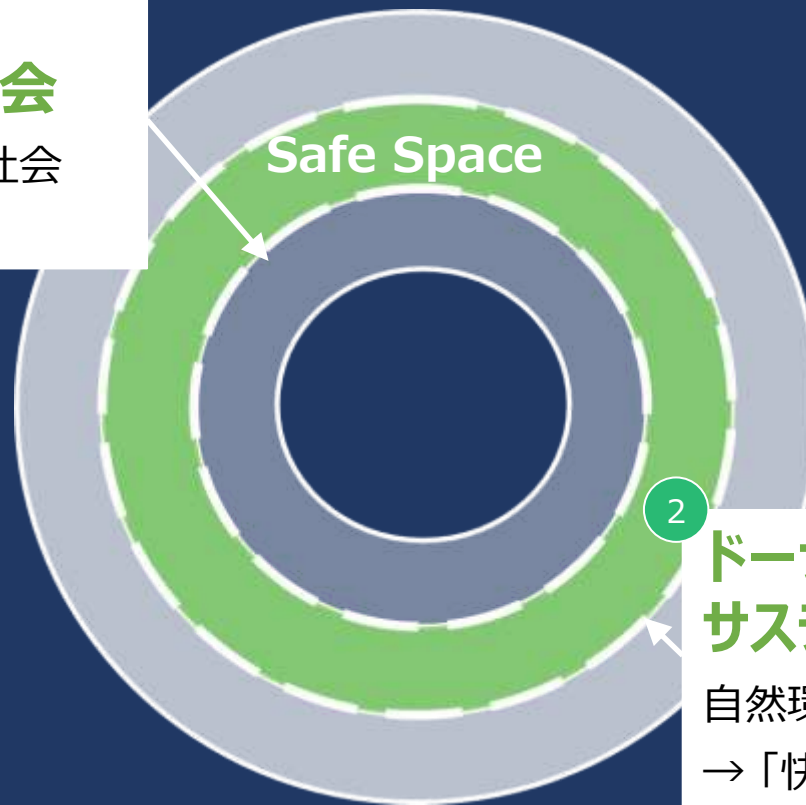
**小さすぎず、大きすぎず、しかも、群馬独自の視点を取り入れる。
そうした経済・社会活動を目指すことが、100年続く群馬に繋がる**

「群馬版ドーナツ経済※」のモデルを打ち立て、 人口減少下でも自立・持続した群馬を築き上げる。

1

ドーナツの内側： サステナブルな地域社会

人口減少下でも、100年続く社会
→「幸せなダウンサイジング」



2

ドーナツの外側： サステナブルな自然環境

自然環境を壊さない経済成長
→「快」x「疎」な空間の構築・活用

※ドーナツ経済

人々の最低限の暮らしを守りつつ、地球環境の限界を超えない範囲で経済を成長させる考え方

第一に、風船を落とさないこと。

群馬の人口は、緩やかに減り続ける。

その中でも、群馬の各地で脈々と続いてきた地域社会を、都市部だけでなく県の隅々で、持続させていかなければならない。

そのためにまずは、人口減少のペースを、できるだけ緩やかにする。

**そして、それだけでなく、
「人が少なくても回る地域社会」、「人が少なくても活発な経済」を
群馬ならではのやり方で模索し、各地で少しずつ広げていく。**

人口減少下でも幸福を実感できる、「幸せなダウンサイジング」に向け、
県民の「一人当たり県民所得」を重点KPIとして引き上げる。

1

ドーナツの内側：
サステナブルな地域社会



人口減少下でも、100年続く社会
→「幸せなダウンサイジング」

人口減少ペースを
緩やかに



- 子育て支援 / 教育魅力化



- 移住拡大・ 関係人口拡大



- 秩序ある 外国人雇用

⋮

人口減少しても
回る社会に



- AI・省力化投資



- 生活機能確保 + 地域公共交通強化



- 県民総活躍 / 官民共創の推進

⋮

人口減少しても
縮まない経済に



- 全産業デジタル・ クリエイティブ活用構想



- 地域経済循環の 強化

⋮

参考) 外国人との秩序ある共生社会の実現

- ◇ 群馬県では、全国に先駆けて「群馬県多文化共生・共創推進条例」を制定し、外国人県民を経済や文化、地域づくりを共に担う「仲間」として受け入れ、多文化共生・共創を推進してきました。
- ◇ 群馬県の外国人県民数は、2015年の44,798人から2025年には87,544人となり、10年間でほぼ倍増しています。外国人県民は、いまや県内経済や地域社会を支える必要不可欠な存在です。
- ◇ その一方で、生活習慣や文化の違い、不法就労など、さまざまな課題が生じており、県民の間には、外国人の増加に対する漠然とした不安を感じる声もあります。こうした不安を放置することは、日本人県民にとっても、外国人県民にとっても不幸な結果を招きかねません。
- ◇ 外国人県民と日本人県民の双方が安心して暮らせる「秩序ある共生社会」を実現するためには、「多文化共生・共創」と「秩序維持」を両輪として進める、いわば「ツートラック・アプローチ」で取り組んでいく必要があります。
- ◇ 「ツートラック・アプローチ」は、外国人を排除するという考え方ではありません。ルールを守り、地域社会の一員として頑張っている県民は、日本人、外国人にかかわらず大切にしたいと考えています。
- ◇ 一方で、外国人の受入れ一辺倒では、真の共生を実現することはできません。適正なペースで受入れを進めるとともに、日本の法令や地域のルールが守られ、県民の安全・安心を確保すること、この双方の取組を明確にしていくことが重要です。

参考) ヒトのポテンシャル - 県民総活躍

- ◇ まずは人材です。今後20年間の生産年齢人口の減少という事実を前に、社会のなかで埋もれている才能を発掘し、担い手を増やして長期の持続可能性を確保する必要があります。
- ◇ ここでは、安宅和人氏の議論から若者、女性、高齢者に着目します。
- ◇ まずは若者です。2017年段階で日本の単身を除く世帯の3世帯に1世帯が貯蓄を持っておらず、さらに難関大学の学生の親の所得水準は高く、これらの大学では地方出身者の割合が明らかに低いという事実があります。これは、少なくとも3分の1近い才能と情熱が、単なる環境要因によってきちんと発揮される機会なく埋もれている可能性を示しています。つまり、貧困の再生産、拡大ループを断ち切り若い才能を発掘する必要性があるということです。
- ◇ また、日本の男性の給与労働時間の長さ家事・育児時間の短さ、女性の家事・育児時間の長さを指摘し、日本の男性がもう少し効率的に働き一日に90分（男女の家事時間の差の半分）を家事・育児に回し、女性がその分を仕事に回すことができれば、女性が価値を生み出す容量が3割以上増えると試算しています。
- ◇ さらに、シニア層も定年という制度で「強制」退場させてしまうことをやめることで、経験豊かな労働力が増えます。仮に各年齢ごとの人数が同じだとしても、20～65歳ではなく、20～80歳まで範囲を広げるだけで、3割以上の労働力が増える計算です。

参考) 共創のポテンシャル – 「官民共創コミュニティ」

- ◇ 「官民共創コミュニティ」には、最新の技術や知見を取り入れる企業やNPO、大学や研究機関に加え、県民が直接参加し、現場の課題を丁寧に掘り起こします。県や市町村は、声の小さな人たちも参加できるよう配慮したり、参加者の自由な発想や活発な議論がひとつの未来の形に結実し、実際に「官民共創コミュニティ」が公的なサービスを担えるよう支援していきます。
- ◇ このような取組は、既に実施している市町村もありますが、改めて「官民共創コミュニティ」という概念として示すことで、「共創」の重要性を再認識しようとするものです。
- ◇ 「官民共創コミュニティ」の一例として、県庁32階が挙げられます。
ここでは、動画・放送スタジオ「tsulunos」に加え、「カフェ」とイノベーションハブである「NETSUGEN」も一体的に運営し、様々な人が集まり、地域課題を解決するモデルを生み出す、「官民共創コミュニティ」の中核になると考えています。
- ◇ 将来「官民共創コミュニティ」が担うことを期待される公的サービスは多岐に渡ります。
- ◇ 産業分野やまちづくり分野だけでなく、より身近な健康や育児、食の地産地消といった分野でも、「官民共創コミュニティ」が課題解決の新たな方法を共創し、居場所としての安心感を得られる場として、積極的な役割を果たしていくことが期待されます。

参考) モノのポテンシャル – 地域経済循環

- ◇ 京都大学の広井良典名誉教授は、AIを活用した将来シミュレーションにおいて、2050年まで持続可能な日本社会のシナリオを提言しています。
- ◇ 広井教授によると、持続可能性にとって最も本質的なのが都市集中型か地方分散型かの分岐点であり、日本社会の持続可能性には、「分散型の社会システム」に転換していくことが、決定的な意味を持ちます。さらに分散型の社会システムにおいても、地域内の経済循環が十分に機能しないと、やがて財政や環境が悪化し、持続可能性が失われます。
- ◇ つまり、自然エネルギーなどを通じて地域内の経済循環を高めることで、地域の外部に「漏れ出て」いる資金を域内に環流するようにし、ヒト・モノ・カネの循環が地域の中で行われるようにすることが、持続可能な地域社会にとっては決定的に重要なのです。
- ◇ 地域経済循環の重要性は、自然エネルギーに留まらず、食や生活必需品についても域内での循環を高めることが必要だと考えます。
- ◇ この点、群馬県はエネルギーの自給率が全国 5 位であるほか、豊かな自然や農業など、大きな可能性を持っています。

第二に、「疎」の大きな魅力である自然環境。

群馬の経済と社会は、自然を壊さないよう、自然と共生していく。

それだけでなく、自然環境を、県の魅力として最大限活用していく。

地域環境の限界を超えない範囲で経済を成長させる。
「快・疎」な空間を活かして、守ると活かすの両面から取り組む。

2

ドーナツの外側：
サステナブルな自然環境



自然環境を壊さない経済成長
→ 「快」x「疎」な空間の構築・活用



自然を守る

首都圏を支える上流域として、
自然資本を徹底して守る

自然は単なる風景ではなく、
重要な資本である



自然を活かす

「快・疎」な空間を磨き上げ、経
済価値（ブランディング・観光）
へ転換する

2040年、すべての県民が幸福を実感できる群馬

我々が目指す「快疎」な群馬では、2040年、すべての県民が自ら思い描く人生を生き、幸福を実感できていなければならない

「疎」でありながら幸福を実感できるためには、人口減少下でも安心して暮らせる、そして、100年後にも続くと思える地域が必要

- ▶ 地域の安全と持続を支える土台は、激変する環境の中でも価値を生み出し稼ぎ続ける産業と、それに支えられる安定した財政

その全体を支えるのが、自ら考えて行動する始動人と、官民の共創

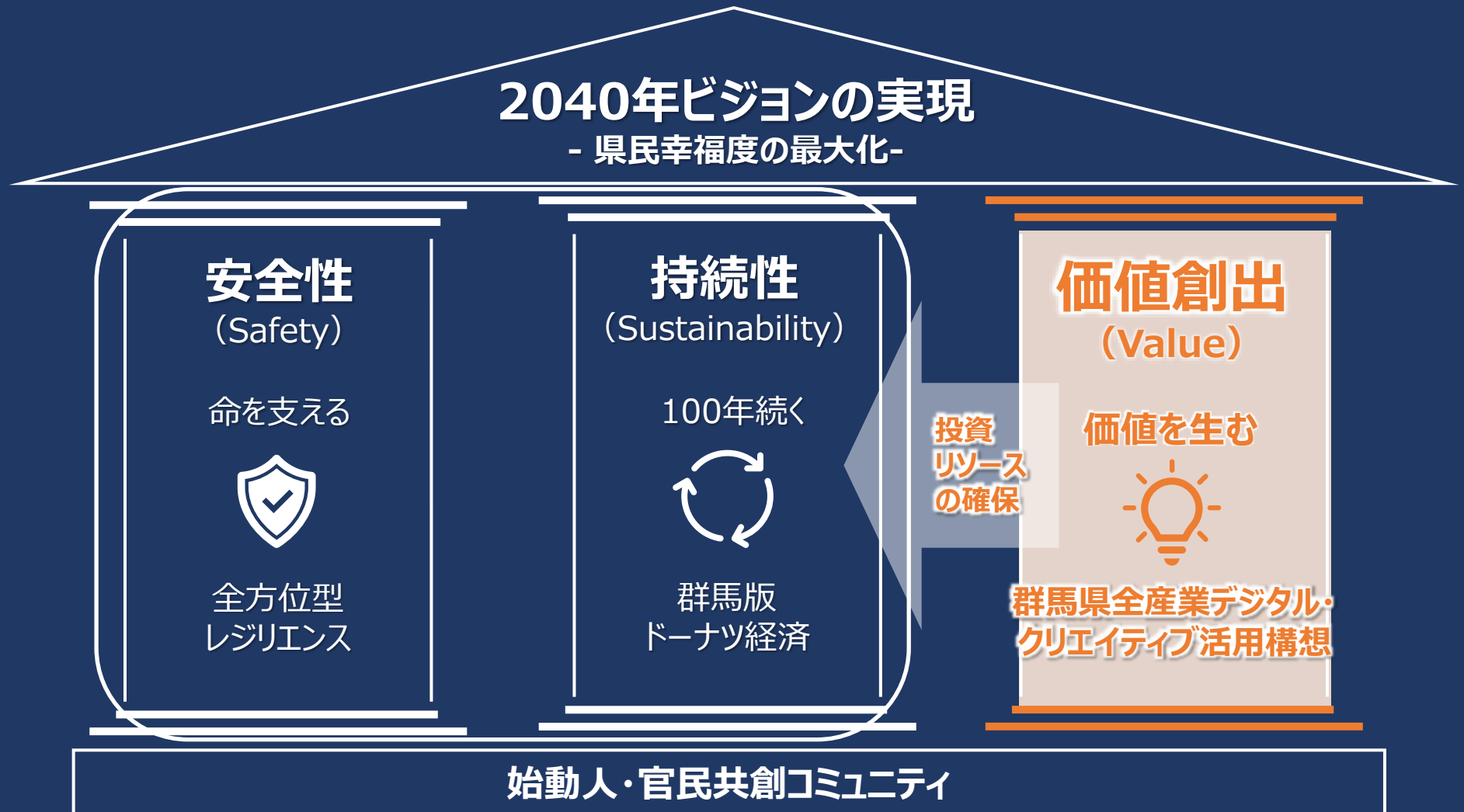
安全性・持続性を確保するためには、官民の投資が欠かせない。

県をはじめとした公共部門からの財政支出。

民間企業の活発な投資と事業展開。

そのためには、県GDP全体を長期的に成長させることが不可欠。

安全性・持続性を確保していくためには、官民の投資が欠かせない。
そのためには、県GDP全体を長期的に成長させることが不可欠。



**製造業、農林業、建設業、観光業をはじめとした県の主力産業は、
県経済の成長を力強く牽引していくため、さらに「稼ぐ力」を高めていく。**

**そして、想定外のリスクに備え、これら主力産業だけに頼り切るのではなく、
新たな産業によって産業構造を多角化し、強靱性を高めることも必要。**

**製造業、農林業、建設業等の主力産業が「稼ぐ力」を高める。
同時に、新たな産業によって産業構造を多角化し、強靱性を高める。**

県産業は、個々の事業者では対応が困難な、
大きな環境変化に直面

今後求められるのは、
県産業の・・・

課題 1

マクロ経済のインフレ基調への変化

- ・ 原油価格・物価の高騰、適正価格転嫁の必要性



高付加
価値化



課題 2

少子高齢化に伴う人手不足

- ・ 労働力の不足、外国籍労働者の受入ハードル



省力化



課題 3

製造業・自動車産業の事業環境変化

- ・ EV化、関税政策、希少素材の禁輸



多角化



「稼ぐ力」向上

強靱化

県産業の「稼ぐ力」を高める。

同時に産業構造の強靱化も一気通貫で進める。

**そのために、既存の県産業に向けた個別の振興策に加え、
新たに「群馬県全産業デジタル・クリエイティブ活用構想」を推進。**

② 目指す姿 – 価値創出（群馬県全産業デジタル・クリエイティブ活用構想）

県産業の「稼ぐ力」を高めつつ、同時に産業構造の強靱化も一気通貫で進めるため、新たに「群馬県全産業デジタル・クリエイティブ活用構想」を推進。

群馬県全産業デジタル・クリエイティブ活用構想

全産業の「稼ぐ力」向上

柱③



全産業の
デジタル・クリエイティブ活用

産業構造の強靱化

柱①



コンテンツ産業の
創出・振興

柱②



デジタル・クリエイティブ人材
の育成・集積



各産業向け
県の支援策

農業 観光業 建設業 林業 医療・福祉 製造業 卸売業 小売業 サービス業 運輸業 …

柱の1つ目は、コンテンツ産業の創出・振興。

**新たな産業の創出・振興に取り組むことで、
県産業を多角化し、県産業全体の強靱化を目指す。**

**新たな産業の創出・振興に取り組むことで、
県産業を多角化し、県産業全体の強靱化を目指す。**

リスク分散

関税やパンデミックの影響を受けやすい
主力産業とのリスク分散

成長性

政府の日本成長戦略における重点化
AI等の環境変化によるゲームチェンジの可能性

コンテンツ産業
(デジタル技術を活用した
コンテンツ産業)

柱① コンテンツ産業の創出・振興に向けた取組

企業集積

知事によるトップセールス
や補助金等により、人が
働く環境を整備

情報発信

ロケ支援等により、群馬
県におけるコンテンツ産業
の魅力などを情報発信

コンテンツ産業は、政府の日本成長戦略でも重点分野の一つとされ、今後、大きな市場の伸びが期待できる

コンテンツ産業の成長性

成長性の高さ

コンテンツ産業の成長性（2010-2021：国内／年平均）

コンテンツ産業

産業全体

+0.6% ▶ +2.0%

第23回新しい資本主義実現会議 基礎資料

世界市場への展開

日本コンテンツの海外市場規模

2023年

5.8兆円

2033年

20兆円

(株)ヒューマンメディア「日本と世界のメディア×コンテンツ市場データベース2024Vol.17」

女性・若者の魅力的な雇用の場

就職人気ランキング

任天堂や東宝などの

エンタメ系企業が上位

(株)学情 2026年卒業の学生対象「就職人気企業ランキング」

国や経済団体等と連動

クールジャパン戦略

コンテンツ産業を

基幹産業に位置付け

※知的財産戦略本部「新たなクールジャパン戦略」

柱の2つ目は、デジタル・クリエイティブ人材の育成・集積。

コンテンツ産業の創出・振興及び他産業の「稼ぐ力」向上に資する、デジタルスキルやクリエイティブスキルを持つ人材を育成・集積する。

コンテンツ産業の創出・振興及び他産業の「稼ぐ力」向上に資する、デジタルスキルやクリエイティブスキルを持つ人材を育成・集積する。



デジタル人材

AI・データ・プログラミングなどのデジタル技術を理解・活用し、さらには、自らの発想を実際に機能するサービス・仕組みとして形にできる

デジタルスキル（例）

コンテンツ制作用アプリが使える

コーディングし、アプリを作れる

企業DXをコンサルティングできる

⋮

デジタル・クリエイティブ人材



クリエイティブ人材

自らの発想を絵・音楽・文章等のコンテンツで表現し、さらには、新たな価値訴求や課題解決の方策を考え、そこにコンテンツを活用できる

クリエイティブスキル（例）

絵が描ける / 動画を撮れる

製品デザインができる

事業企画/ブランディングができる

⋮

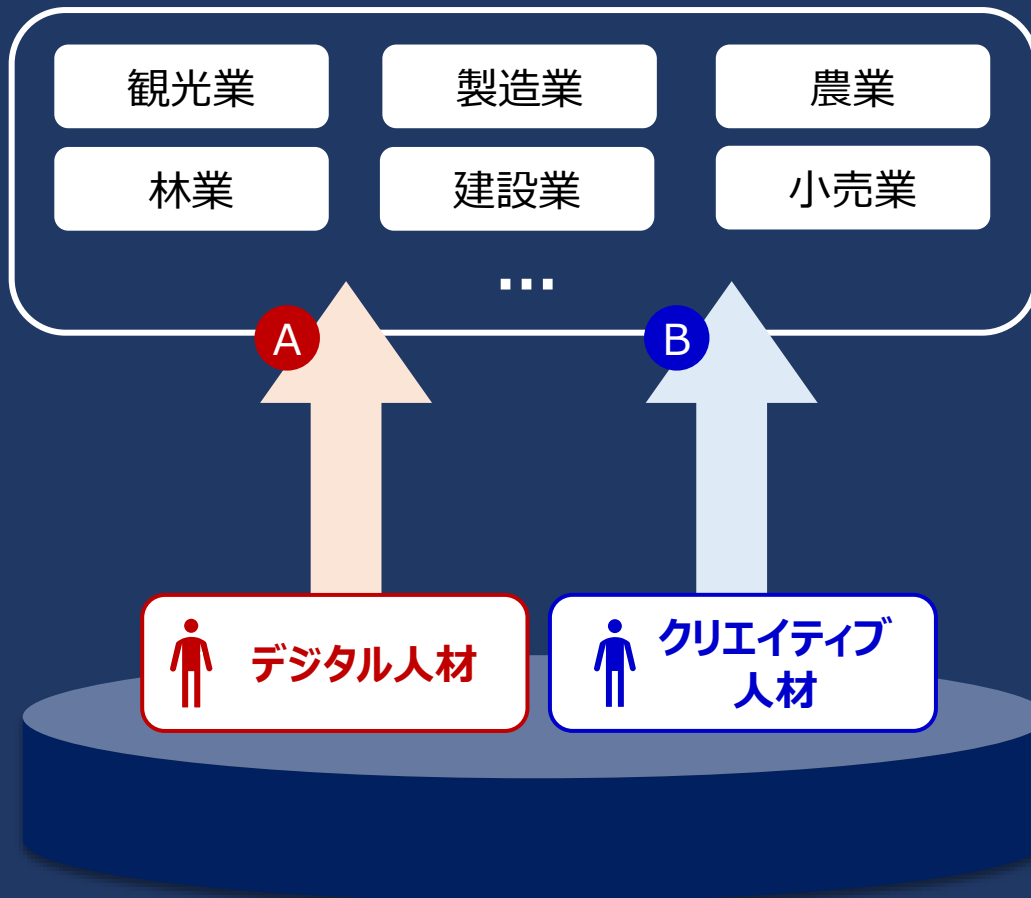
*双方のスキルを兼ね備えた人材も想定

柱の3つ目は、全産業のデジタル・クリエイティブ活用。

デジタル人材やクリエイティブ人材が各産業に広がり、DXやコンテンツ活用／デザイン思考を経営に取り入れる重要な一助となり、「稼ぐ力」を向上させる。

② 目指す姿 – 価値創出（群馬県全産業デジタル・クリエイティブ活用構想）

デジタル人材やクリエイティブ人材が各産業に広がり、DXやコンテンツ活用／デザイン思考を経営に取り入れる重要な一助となり、「稼ぐ力」を向上させる。



A DXの実現（例）

- AIとロボットを導入し、工場や農作業を自動化・省力化
- デジタル広告と独自アプリの活用で、高単価客層を開拓
- 店舗の現場でAIを活用し、事務処理を効率化

B コンテンツ活用／デザイン経営の実現（例）

- 主力製品のデザインを一新し、製品単価を引き上げ
- 新たなロゴを作り、動画や広告のクリエイティブを統一
- 経営哲学をストーリーに編み直し、新規事業を企画

人材の広がり（例）

- 新たな人材が各産業に従事する中で活躍
- 人材バンク等に登録し、各産業の事業者を支援

② 目指す姿 – 価値創出（群馬県全産業デジタル・クリエイティブ活用構想）

（デジタル・クリエイティブ活用の一例）



製造業

Google Geminiで生成

製造業×デジタル・クリエイティブ

- VRや3DCGの活用により、製品開発や生産ラインの効率化、最適化につながる。
- 伝統技術を現代のニーズに合わせて再設計し、デザインの力で高付加価値化。国内外の新たな市場を開拓。



農業

農業×デジタル・クリエイティブ

- アグリテック[※]の推進により生産性を高めるとともに、データに基づく品質管理・ブランド力を強化。
- 生産者の思いやこだわり、地域の背景まで含めて価値を再編集し、ストーリーとして発信。商品のブランド力を高める。

※農業に最新テクノロジーを活用する取組のこと



観光業

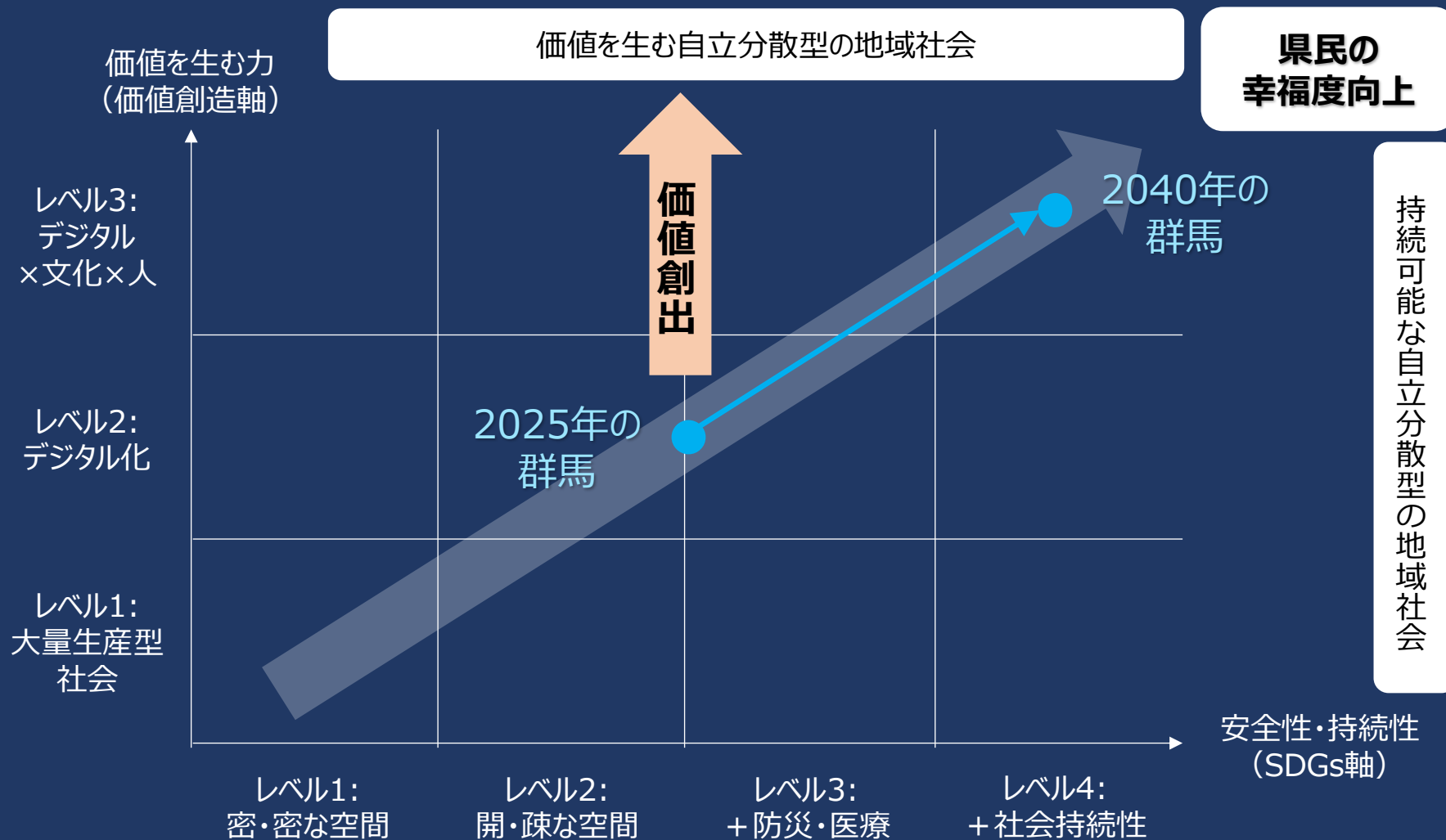
観光業×デジタル・クリエイティブ

- AR／VRによる新たな観光体験の創出や、データを活用したマーケティングにより、観光客の周遊・消費を促進。
- 地域ならではの資源をクリエイティブな視点で再編集し、新たな体験価値を創出。「リトリートの聖地」としてブランド化。

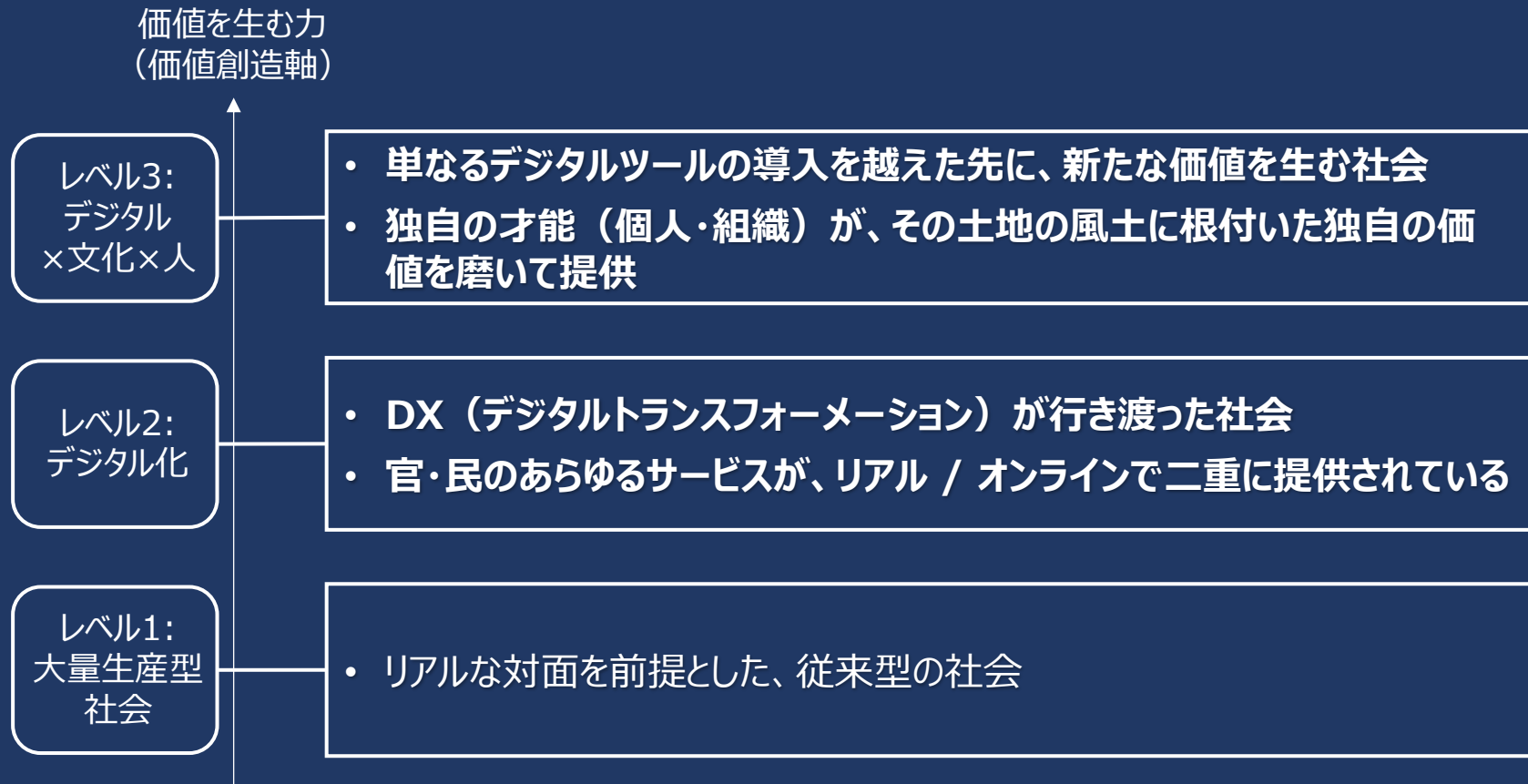
参考) デザイン経営について

- ◇ 「デザイン経営」とは、デザインの力をブランドの構築やイノベーションの創出に活用する経営手法のことで、経済産業省・特許庁は経営にデザインを取り入れることを推奨する「デザイン経営宣言」を2018年に発表しました。ここで言う「デザイン」は、単に製品の外形の美しさ・機能性を指すものではなく、社会課題を発見し解決するためのアプローチと考えられています。
- ◇ デザインをイノベーションに活かす思考法に「デザイン思考」があり、デザイン経営の実践を支えるのに重要なスキルです。ユーザーの視点に立ち、課題の本質とニーズを発見し、これまでの発想にとらわれない、それでいて実現可能な解決策を、柔軟に反復・改善を繰り返しながら生み出していきます。
- ◇ デザイン商品の背景にある物語を伝えて顧客の共感を呼ぶストーリーブランディング、モノだけでなく、魅力的なサービスや空間を組み合わせた体験・時間を消費してもらうコト消費、革新的で美しいプロダクトデザインで商品のイメージまで変えてしまうAppleやTeslaのデザイン戦略などは、いずれも「デザイン経営」の範疇に入ります。
- ◇ 群馬県が掲げる「群馬県全産業デジタル・クリエイティブ活用構想」では、こういった「デザイン思考」のスキルを持つクリエイティブ人材を育成・集積します。その人材が全産業に広がることで、デザイン思考を経営に取り入れる一助となり、「稼ぐ力」の向上につながると考えています。

価値を生み出すことで、安全性・持続性を担保する。



もうひとつの軸は、社会・経済のデジタル化。



単なるデジタルツールの導入を越えた先に、これからの価値が生まれる。

真に最先端のDXは、
地域単位で進む

分散型ICT

IoT、AI、ブロックチェーンといった技術の革新は、従来の中央集権的な社会システムから、**分散型の社会システムへの転換**を促すものとなる。

地域における固有性を色濃く反映した、各地域ならではの社会システムが構築されていくことになる。

アーサー・ディ・リトル・ジャパン（株）
鈴木裕人氏・三ツ谷翔太氏

デジタル技術×風土で、
唯一の価値が生まれる

デジタル発酵

さまざまな**テクノロジーが、その土地に根付いたモノやサービスと掛け合わされる**ことで、新たな魅力と価値が現れてくる。

一見奇妙に見えていても、そのユニークさにおいて外部に開放された、新しいローカリズムのあり方を示している。

メディアアーティスト 落合陽一氏

デジタル技術は前提。
価値を生むのは、人

妄想力

単にリアル空間でのスケールだけがものを言う時代は終了した。技術をテコに世の中を刷新、アップデートできる企業に企業価値が生まれるようになったのだ。

「妄想し、カタチにする」ことが富に直結する時代だ。

慶應義塾大学SFC教授 安宅和人氏

参考)「デジタル×文化×人」とは(1/3)

- ◇ デジタルトランスフォーメーションは、地域の固有性と結びついてこそ真価を発揮します。
- ◇ 現在は、GAFAMに代表されるプラットフォームによる情報の寡占化に見られるように、中央集権的な構造となっている情報通信技術が、IoT*、AI、ブロックチェーン*といった技術革新により、分散化したシステムに移行することが期待されています。
- ◇ この分散化した情報通信技術を活用し、エネルギーやモビリティといった社会システムのデジタルトランスフォーメーションを進めることで、社会システムそのものが現在の中央集権的・画一的なものから、地域の実情に応じた分散型の構造を取ることになります。
- ◇ 例えば、エネルギー分野においては、これまでの電力会社に頼った中央集権的なモデルから、地域社会ごとに個々の家の間で電力を直接融通調整するような分散型のモデルに転換していくことが想定されます。これは、各家庭での太陽光発電や蓄電池などを連携し、IoTやAIを活用して互いの電力需給に合わせて電力を直接融通して全体の最適化を図る考え方です。
- ◇ いわば電力の地産地消です。そして、この地産地消は、人口動態や利用可能な自然資源の違い、地域ごとに志向する最適化の考え方の違いなど、地域の固有性と結びついて初めて形になるものです。

IoT : Internet of Things (モノのインターネット)。自らの状態や周辺状況を感じし、通信し、何かしらの作用を施す技術が埋め込まれているモノが、インターネットに繋がっている状態。あらゆるモノがインターネットに接続することで、モノから得られるデータの収集・分析等の処理や活用が実現する。

ブロックチェーン : 情報通信ネットワーク上にある端末同士を直接接続して、取引記録を暗号技術を用いて分散的に処理・記録するデータベースの一種

参考) 「デジタル×文化×人」とは (2/3)

- ◇ デジタル技術がその土地の風土や文化と結びつき、新しい魅力や価値を生むことも考えられます。
- ◇ メディアアーティストの落合陽一氏は「デジタル発酵」という概念を提示しています。「発酵」とは、ある限られた領域の中で無秩序に混ざり合う内向きの力であり、「デジタル発酵」で発酵の原資となるのは、あらゆる空間に偏在する情報化されたテクノロジー資源です。このテクノロジー資源が、その土地に根付いたモノやサービスと掛け合わされることで、新たな魅力や価値が現れてきます。
- ◇ スーパーコンピュータ「富岳」の登場まで、演算性能では世界トップのアメリカや中国に太刀打ちできない時期が続いた日本ですが、その間も、消費電力当たりの演算性能においては、依然として世界のトップクラスにありました。このように、グローバルな基準から外れた方向への熟練が意外な価値を生み出すことを「デジタル発酵」の典型であると、落合氏は説明しています。
- ◇ 例えば、先に示した電力の地産地消においても、その土地固有の自然エネルギーや人々の自然観とデジタル技術が掛け合わされることで、新しい持続可能な分散電源のあり方が生まれてくるかもしれません。
- ◇ また、ある街の固有の構造、そこでの人の営みや死生観とデジタル技術が掛け合わされ、新しい健康寿命のあり方が立ち現れてくるかもしれません。

参考) 「デジタル×文化×人」とは (3/3)

- ◇ 企業が富を生み出す構造も転換しています。そして、これからの富は、技術に未来を創造する力が掛け合わされることで生まれてくると考えられます。
- ◇ 慶應義塾大学SFC教授の安宅和人氏によると、これまでは、「スケール」を取り、大きな売上げ、付加価値、そして利益を生めば企業価値につながるのが、富を生む方程式でした。しかし、現在の非連続的な変化に富む局面では、「未来を変えている感」が企業価値になり、それをテコに投資し、最終的に付加価値、そして利益につながるという、富を生む方程式が真逆の流れになりました。この未来を生み出す力は、「未来 = 夢 × 技術 × デザイン」と表現されます。未来は我々の課題意識、もしくは夢を何らかの技・技術で解き、それをデザインで形にすることで生み出されるのです。
- ◇ デジタルトランスフォーメーションは、人間の持つ未来を夢見る「妄想力」と組み合わせられて、その真価を発揮するのです。

参考) AIの進化について

- ◇ 近年、生成AIの急速な進化により、社会の構造は大きく変化しつつあります。これまで人間が担ってきた事務処理や分析、文章作成といった知的労働についても自動化が進み、「何を知っているか」という知識そのものの価値は相対的に低下しつつあります。こうした中で、価値の源泉は、知識の蓄積から、それをもとに新たな価値を構想し創造する力へとシフトしています。
- ◇ 日本共創プラットフォーム（JPiX）代表取締役会長の富山和彦氏は、AIによって今後は中間的で代替可能な業務の縮小が進み、いわゆるホワイトカラー*の仕事が減少していく一方で、人間にしか担えない役割の重要性が高まるとされる。すなわち、現場に根ざした付加価値の創出や、他者との協働を通じた新たな価値の創出といった、人間固有の能力がより強く求められる社会へと移行していく。と提言しています。
- ◇ このような社会において必要とされるのは、自ら課題を設定し、異なる分野や資源を組み合わせながら価値を生み出す力です。また、AIを単なる代替手段としてではなく、自らの創造性を拡張するためのツールとして使いこなす力も不可欠となります。
- ◇ さらに、AIの普及は、地理的制約を大きく低減させる側面も有しています。都市と地方の情報格差や技術格差は縮小しつつあります。今後は技術そのものの優劣ではなく、地域固有の自然や文化、人材といった資源をいかに活かし、独自の価値として発信できるかが問われることとなります。この観点から、AIの進化は、地方に不利に働くものではなく、むしろ創造力次第で競争力を高める機会となり得るものです。

ホワイトカラー：主に知識や情報処理を基盤として業務を行う職種を指す。具体的には、事務、企画、経理、営業、管理、コンサルティングなど、デスクワークを中心とする職務に従事する人材をいう。

出典：「ホワイトカラー消滅 私たちは働き方をどう変えるべきか」（富山和彦著）

デジタルと溶け合わせるべき「群馬の土壌」。

これを欠いたデジタルは、どこにでもある汎用品に過ぎない。

群馬という地が持ち得る求心力を、見つめ直すことが必要。

イノベーションや魅力の源泉になる地域の固有性、 群馬の土壌を、改めて見つめ直すことが必要。

- ・ 都市の利便性や楽しさに対抗し得るだけの本質的な求心力をいかに数世紀以上にわたって土地に持たせるかだ。
- ・ どんな土地にも何層にも積み重なる部分をうまく掘り起こし、価値につなげていくことができれば、単なる美しさ以上の厚みのある世界が生み出せるだろう。

慶應義塾大学
安宅和人
教授

「風の谷」はどんなところか

- ・ よいコミュニティである以前に、よい場所である。ただし、結果的によいコミュニティが生まれることは歓迎する
- ・ 人間が自然と共存する場所である。ただし、そのために最新テクノロジーを使い倒す。
- ・ その土地の素材を活かした美しい場所である。ただし、美しさはその土地土地で全く異なる。
- ・ 水の音、鳥の声、森の息吹……自然を五感で感じられる場所である。ただし、砂漠でもかまわない。
- ・ 高い建物も高速道路も目に入らない。自然が主役である。ただし、人工物の活用なくしてこの世界はつくりえない。

参考) 土地の求心力

- ◇ ここで、デジタル技術とともに、イノベーションや地域の魅力の源泉となる、地域の固有性についても掘り下げて考えてみます。
- ◇ 慶應義塾大学SFC教授の安宅和人氏は、「シン・ニホン」の中でテクノロジーだけでは解決できない地域の課題として、その土地の求心力の問題を挙げています。
- ◇ 都市の利便性や楽しさに対抗しうるだけの本質的な求心力を、その土地が持たなければ、人々はその土地に集まらず、とどまることもありません。その解決の糸口として、「その土地の記憶を活かす」ことが必要です。それぞれの土地が持つ豊かな記憶を大切にし、それをいい意味で活かすことが真の探究力につながります。そして、「どんな土地にも何層にも積み重なる部分をうまく掘り起こし、価値につなげていくことができれば、単なる美しさ以上の厚みのある世界が生み出す」ことができ、それは「その土地土地で全く異なる」ものになります。
- ◇ 私たちも、群馬県という土地が持つ豊かな記憶を掘り起こし、イノベーションや土地の魅力につなげていくことが重要だと考えています。

私たちは、県内各地の固有性を掘り起こし、耕し、つないでいく。 新しい価値や魅力を生み出す、私たちの土壌とは何か。

例：資源循環や
水害の大規模化の時代に

利根川水系の「上流社会」

この土地の人々の生活は、群馬の豊かな山々がもたらす豊かな水に支えられた利根川とともにあった。県内各地で利根川との関わりの物語が生活に息づいている。

近世では上州と江戸を結ぶ通運の大動脈として、さらに、豊かな森林資源とダムが結びつき首都圏の水がめとして。

私たちは「上流社会」の責任を負う土地に暮らしている。

例：デジタル技術が
大きな変革をもたらす時代に

産業革命を支えた養蚕

近世から群馬の風土を生かして発達してきた養蚕業、製糸業、織物業を背景に、官営富岡製糸場で、日本の近代化を牽引した。

伝統的な産業を社会の変革と融合させた「進取の気風」があり、養蚕業を中心にできあがった生活様式の名残が、現在も日常の風景に溶け込んでいる。

「かかあ天下」で名高い働き者の女性の存在も欠かせない。

例：ローカリズムと
多様性の時代に

ローカリズムの結晶上毛かるた

県内各地の多様な歴史・文化が凝縮された上毛かるた。

誰もがカルタで遊び、当たり前のようにそらんじる。上毛かるたは子どもたちの生活の一部になっている。

一枚の札にあるローカルな背景を耕すことで、群馬県の中にある多様性を豊かにすることができる。「しのぶ毛の国」は、渡来人とのグローバルな文化交流が発酵した共生社会だった。

2040年、すべての県民が幸福を実感できる群馬

我々が目指す「快疎」な群馬では、2040年、すべての県民が自ら思い描く人生を生き、幸福を実感できていなければならない

「疎」でありながら幸福を実感できるためには、人口減少下でも安心して暮らせる、そして、100年後にも続くと思える地域が必要

地域の安全と持続を支える土台は、激変する環境の中でも価値を生み出し稼ぎ続ける産業と、それに支えられる安定した財政

▶ その全体を支えるのが、自ら考えて行動する始動人と、官民の共創

変化を前向きに捉え、自ら考え、新しい領域で動き出す「始動人」。

変化の激しい時代だからこそ、その重要性が増している。

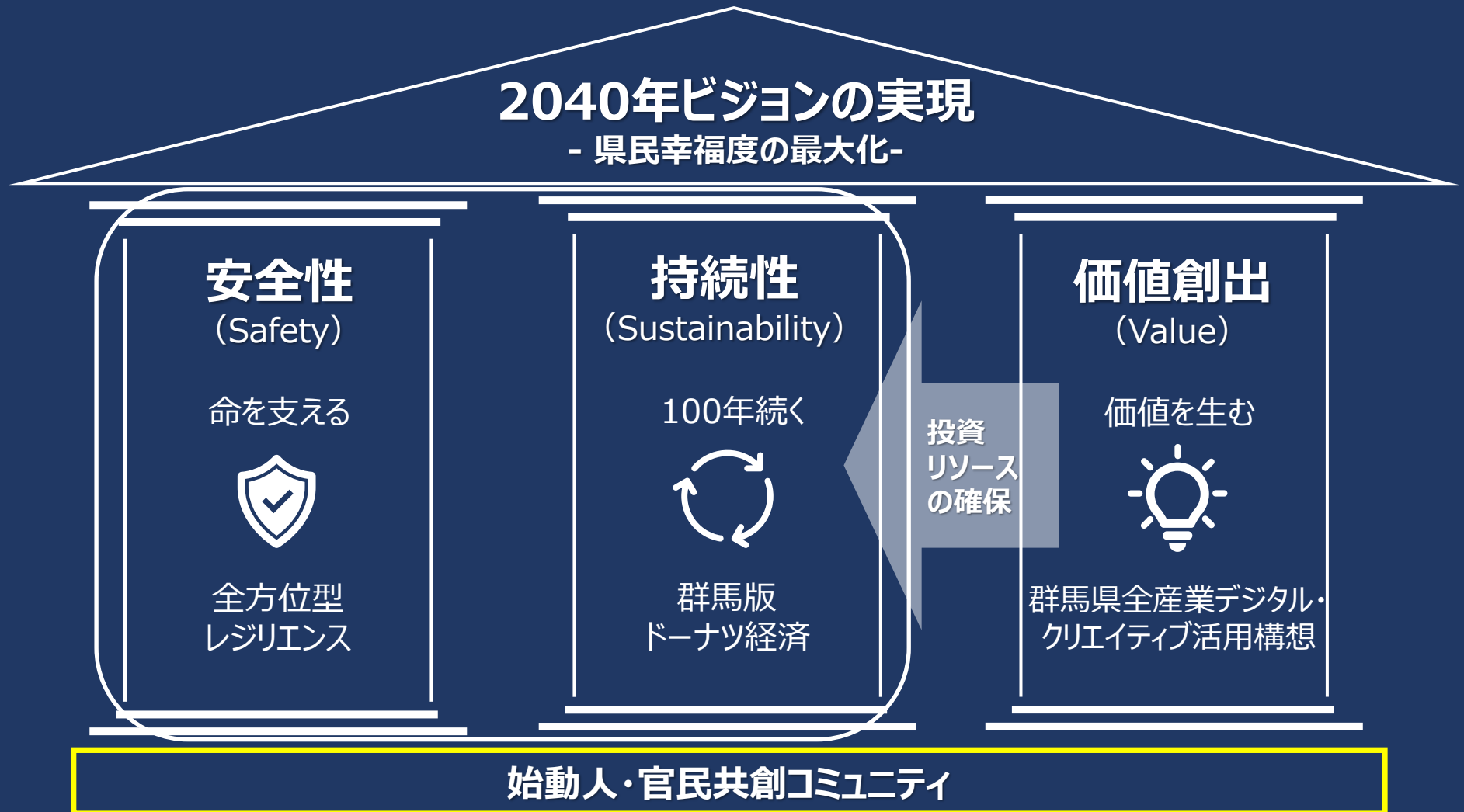
始動人の活躍が、新たな始動人を育てる。このような自然循環を築く。

官民の力が繋がることで、公共にイノベーションを生み出す。

「官民共創コミュニティ」によって、あらゆる地域課題を解決する。

この力を最大限に活かし、100年持続する公共をつくりだす。

自ら考えて行動する始動人と官民の共創が、3つの力を支える。





2040年に向けた、政策の方向性

2040年に向けた、政策の方向性

- ▶ あらゆる政策分野において、3つの力を反映。
「快疎」な群馬と、前提となる県民幸福度の最大化を目指す。

以上のビジョンについて、県民との対話を重ね、
順次アップデートを行っていく

3つの力を、全ての分野に統合的に反映することで、
2040年の目指す姿である“県民幸福度の最大化”を目指す。

2040年ビジョンの実現

- 県民幸福度の最大化 -

安全性
(Safety)

命を支える



全方位型
レジリエンス

持続性
(Sustainability)

100年続く



群馬版
ドーナツ経済

価値創出
(Value)

価値を生む



群馬県全産業デジタル・
クリエイティブ活用構想

投資
リソース
の確保

始動人・官民共創コミュニティ

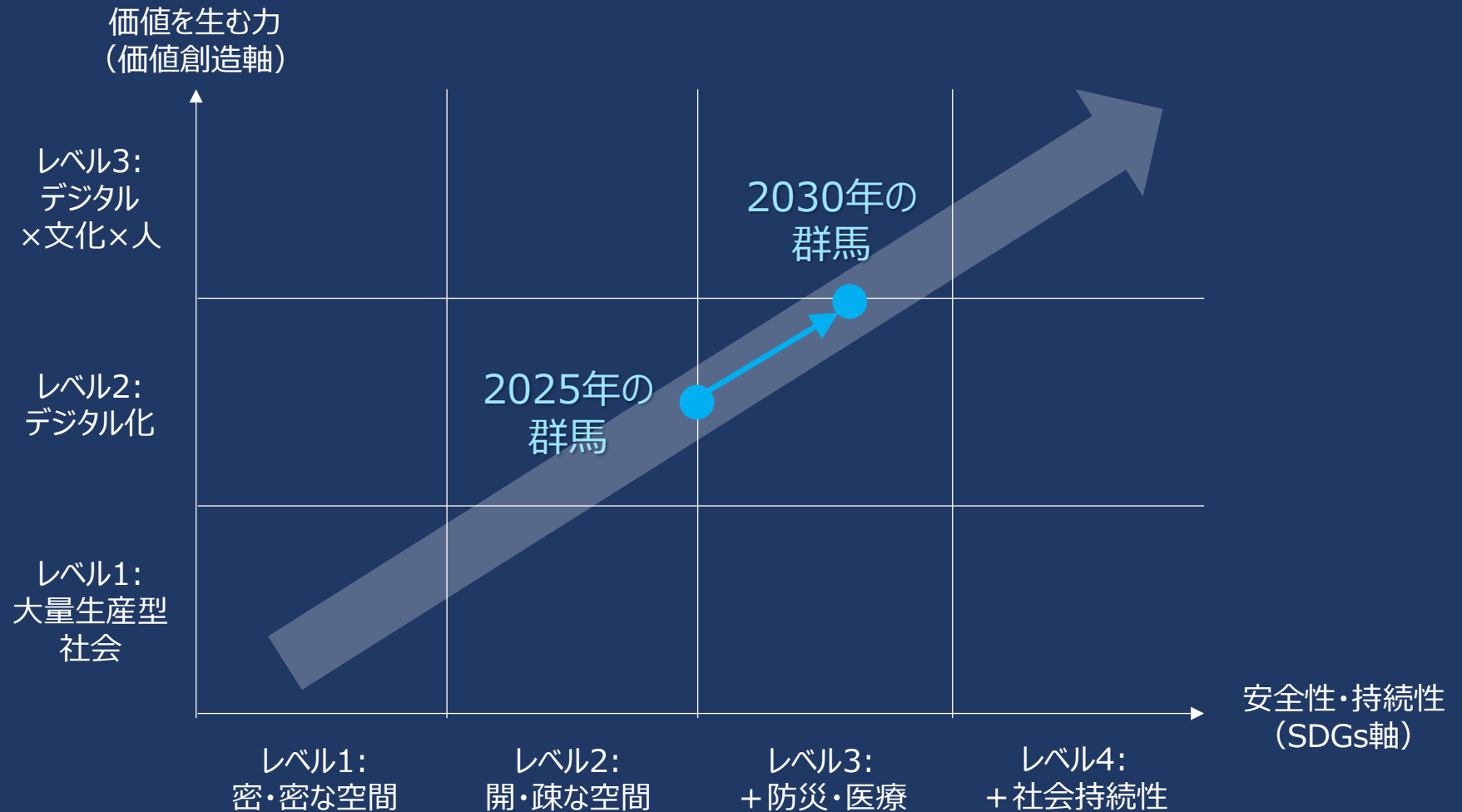
<具体的な適用事例>

国際分野 (外国籍住民関連)	環境分野	まちづくり分野
①安全性 ・「ルールを守る外国人県民」が住みやすい県に＋「不法就労・不法滞在」をなくす“ツートラック・アプローチ”で取り組む ②持続性 ・適正な共生を守れるペースで外国人県民を受け入れ、人口減少のインパクトを緩和 ③価値創出 ・海外からの投資やクリエイティブな人材の呼び込みを進め、県産業構造の多角化を図る	①安全性 ・クマ獣害等の自然の脅威に対し、ゾーニングなどの安全対策を強化 ②持続性 ・首都圏を支える上流域として、国内のネイチャーポジティブの取組をリードする（cf.尾瀬） ③価値創出 ・県の自然資本を活かした、製造業・観光業・クリエイティブ産業等を積極的に生み出す	①安全性 ・「気候変動適応先進県」として、酷暑や気象災害に耐え得る新たな防災型都市・住環境を実現 ②持続性 ・官民共創で「新たな企業城下町」づくりなどの群馬モデルを発信 ③価値創出 ・従来型の工業団地だけでなく、デジタル・クリエイティブ企業の誘致に効果的な都市機能を整備

3つの力を全政策分野に反映し、取組を加速させる。

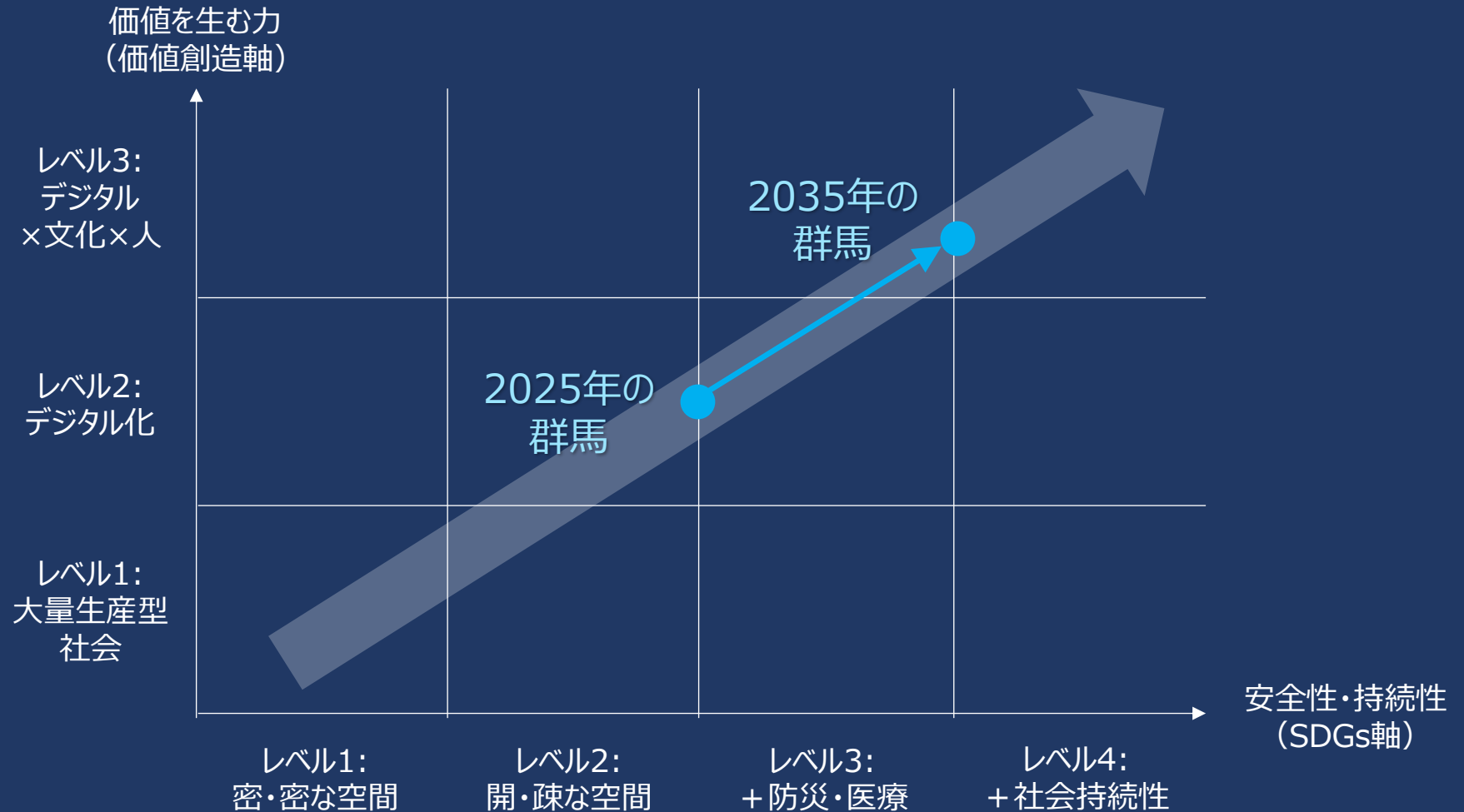
2040年までの具体的な道筋はどうか？

2030年には、安全性・持続性・価値創出の柱を固め、群馬モデルとして確立する。

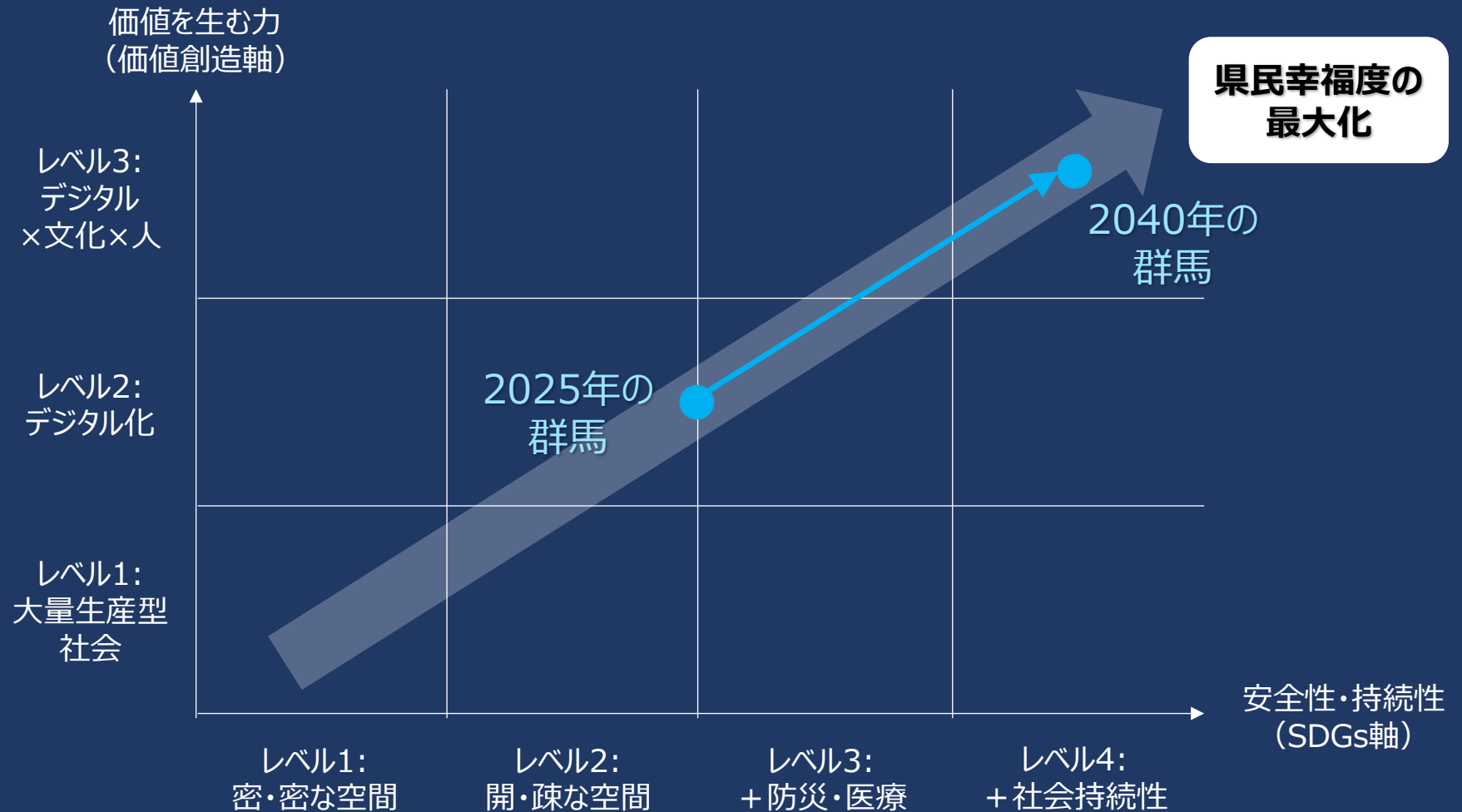


③ 実現へのロードマップ – 2040年までの道筋

**2035年には、“快疎”な地域を確立し、
そこでワクワクする取組が広がることで、
日本中・世界中から選ばれる群馬県を確立する。**



2040年には、すべての県民が幸福を実感できる、
“幸福度ナンバーワンの群馬県”を実現する。



2040年に向けた、政策の方向性

あらゆる政策分野において、3つの視点を反映。
「快疎」な群馬と、前提となる県民幸福度の最大化を目指す。

- ▶ 以上のビジョンについて、県民との対話を重ね、
順次アップデートを行っていく

県民一人ひとりが考える、皆のビジョンへ。

県民一人ひとりが動く、新しい実践へ。

県の2040年ビジョンは、これで完成ではない。

**県民との対話を重ね、
時代の変化に合わせて順次アップデートしていく。**

未来に向けて

**群馬県は、常に時代の大きな変化を読み取り、
新しい未来を想像し、進化し続ける。**

資料編
今後更新

資料編
今後更新

